

特242

492

昭和十七年十一月

国民学校職員錬成講習会要目



\*0043250000\*

0043250-000

特242-492

国民学校職員錬成講習会要目

東京高等師範学校附属国民学校初等教育研究会・編

東京高等師範学校附属国民学校初等教育研究会

昭和17

AHE



特242

492

昭和十七年十一月

# 國民學校職員鍊成講習會要目

東京高等師範學校附屬國民學校內

初等教育研究會



開會式次第(會場は三階講堂)

- 一、會員着席
- 一、修禮
- 一、宮城遙拜
- 一、黙禱
- 一、國歌齊唱
- 一、會長挨拶
- 一、修禮

閉會式(開會式に準ず)

明治神宮參拜

- 一、全會員午前六時三十分までに原宿驛前神宮橋に集合  
整列行進して神宮前にいたる。
- 二、神宮參拜は次の順序による。

整列

拜禮

國威宣揚必勝祈願

宣誓文朗讀

- 三、參拜後、原宿驛前にて解散

會員心得

- 一、會員證は、常に携帯し、會員章は左の胸におつけ下さい。
- 二、定刻に遅れない様に出席して下さい。
- 三、毎日出席をとります。

四、靴、下駄等は各自御持参の上履に御取替下さい。

五、一切の携帯品は各自にお持ち下さい。

六、喫煙は必ず會員控室及廊下其他に備へてある「吸殻

入用バケツ」の附近で願ひます。

七、辨當は毎日各自で御持参下さい。食事は講堂又は控

室及屋上でして下さい。

參觀心得

一、授業は普通教室、特別教室、運動場、體育室等にて

行ひます。

四、五部へは占春園の池のほとりを傳つておいで下さ

い。

工作室裁縫室へは一階及二階(體育室中二階)の歩廊か

らおいで下さい。

二、授業は天候により次の日の授業と繰替へることがあ

りますし、場所を變更する事もありますから掲示に御

注意下さい。

聽講心得

一、講演は本校講堂(三階)で行ひます。

二、第二時限終り次第右講堂へ御参集下さい。

三、座席は、各自の會員證と同番號ですから必ずその定

席をお守り下さい。

四、講話中の發言はお断りします。御質問はその要項を

まとめて事務所へお出し下さい。

五、講習證書は交付しません。



目次

講演

國民學校に於ける行事の取扱.....四頁

國民科「郷土の觀察」指導の要點.....六頁

體鍊科教授要項並に武道(柔道)について.....八頁

體鍊科武道(劍道)新教授要項に就いて.....一〇頁

國民科國語(讀み方)指導について.....一二頁

國民科國語綴り方・話し方指導の重點.....一四頁

藝能科工作に於ける機械教材.....一六頁

低多年の算數指導について.....一八頁

藝能科習字教科書編纂の要點とその實踐.....二〇頁

高學年算數教授の方法的解明.....二二頁

藝能科圖書指導の重要點.....二四頁

藝能科音樂實踐の要點.....二六頁

合理創造と製作實驗.....二八頁

教科科目の運営について.....九二頁

授業案

一部一年 國民科國語綴り方授業案.....三〇

三部二年 國民科國語讀み方授業案.....三二

二部四年 國民科修身授業案.....三四

一部六年 體鍊科武道(柔道)授業案.....三六

初六年女 體鍊科體操授業案.....三八

目次

一部五年 國民科國語讀み方授業案.....四〇

四部高一・二女 國民科國史授業案.....四二

一部六年 國民科修身授業案.....四四

四部高二男 體鍊科武道(劍道)授業案.....四六

二部三年 國民科國語讀み方授業案.....四八

體鍊科體操授業案.....五〇

三部四年 國民科國語讀み方授業案.....五二

二部五年 國民科國語讀み方授業案.....五四

三部六年 國民科地理授業案.....五六

一部二年 藝能科習字授業案.....五八

二部二年 理數科理科(自然の觀察)授業案.....六〇

二部四年 藝能科工作授業案.....六二

二部四年 藝能科(裁縫)授業案.....六四

二部六年、理數科算數授業案.....六六

三部六年 藝能科圖書授業案.....六八

二部一年 理數科自然の觀察授業案.....七〇

一部四年 理數科理科授業案.....七二

三部六年 理數科算數授業案.....七四

四部一・二女 藝能科家事授業案.....七六

三部一年 理數科算數授業案.....七八

三部四年 藝能科音樂授業案.....八〇

三部六年 藝能科工作授業案.....八二

一部二年 理數科算數授業案.....八四

自然の觀察授業案.....八六

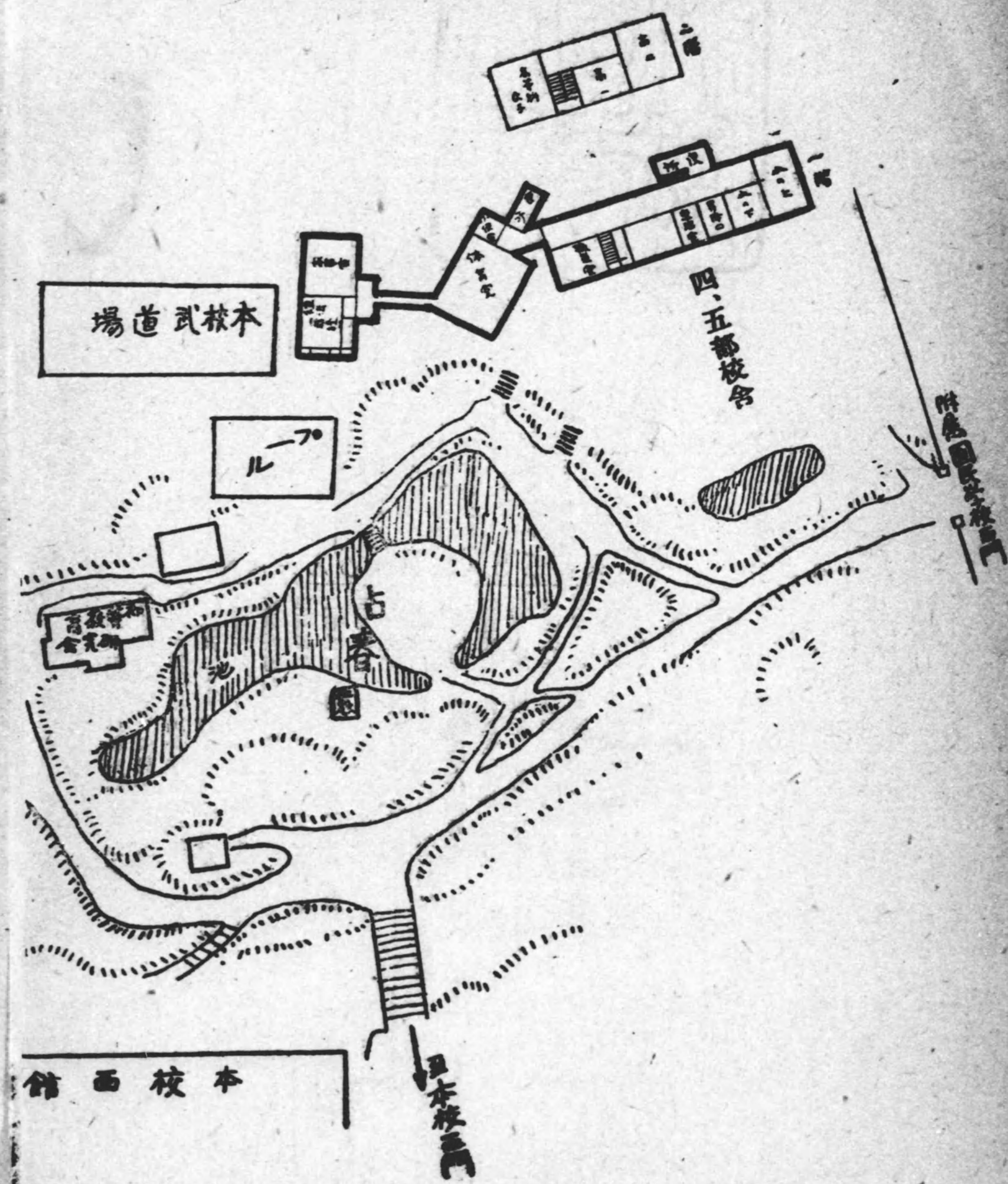
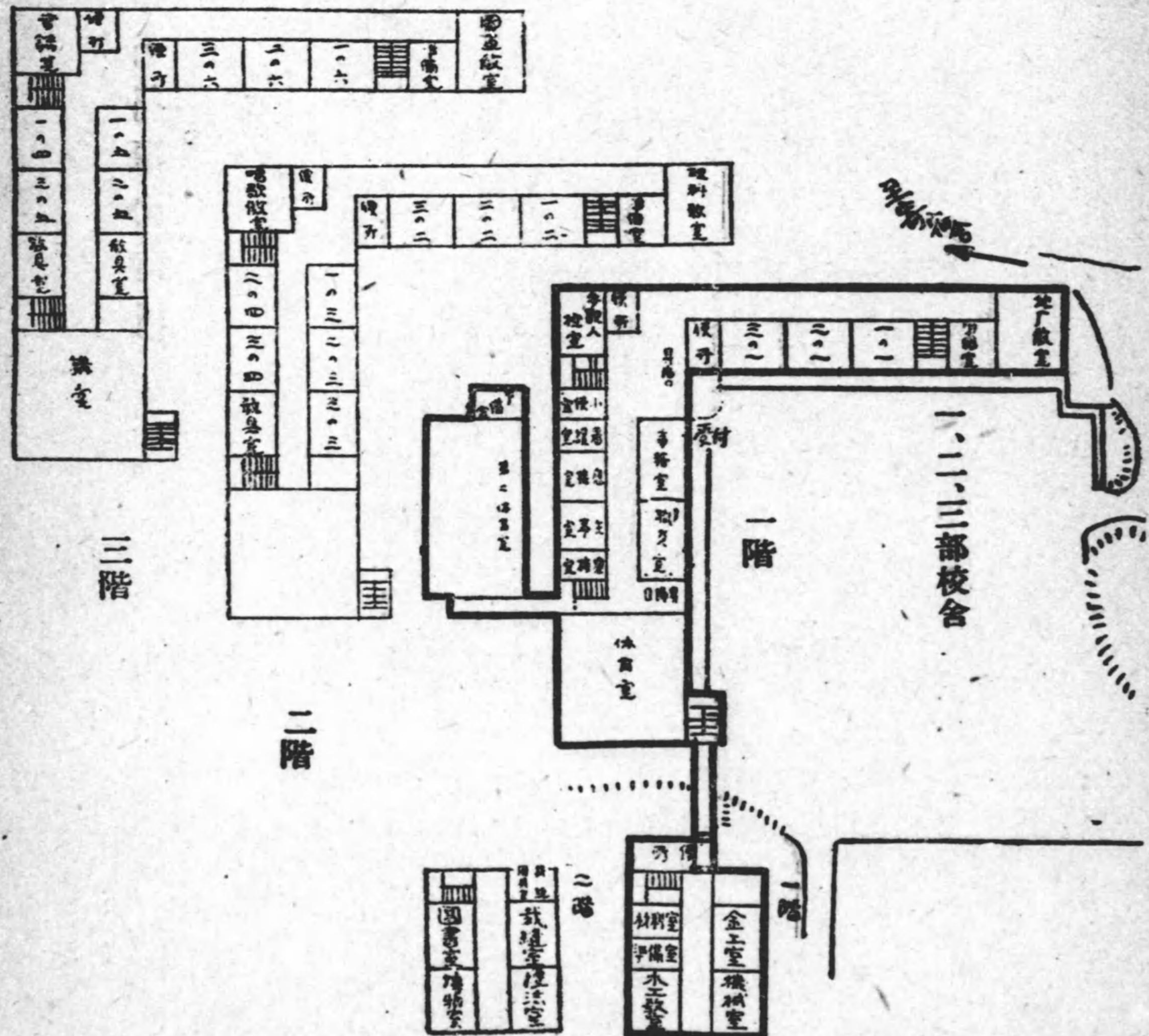
藝能科音樂授業案.....八八

四部高一 實業科商業授業案.....九〇





東京高等師範學校  
附屬國民學校校舍配置圖





# 國民學校に於ける行事の取扱

川島 次郎

- 一 國民學校に於ける行事の地位
  - 一、行事の意義 「儀式學校行事等ヲ重ンジ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ擧グルニカムベシ」施行規則
  - 二、行事の重視 「儀式學校行事等ヲ重ンジ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ擧グルニカムベシ」施行規則
  - 三、行事の價值
- 二 國民學校に於ける行事——當校に於ける實踐の概要
  - 一、日中行事
  - 二、月中心行事
  - 三、年中行事
- 三 公的行事——社會的行事——郷土的行事——校内的行事——教科的行事
  - 一、朝禮
  - 二、月曜朝禮
    - 朝禮か朝會か——本旨——參列者——隊形——行事(敬禮、訓話、注意、體操)——行事禮法
    - 月曜朝禮の本旨——行事(敬禮、宮城の方を拜す、默禱、訓話、唱歌「海行かば」、週番長の注意、體操)——最敬礼の指示と方法——默禱の方法
    - 三、奉安所附近清掃作業
  - 三、奉安所附近清掃作業
- 四 月中心行事とその取扱
  - 一、大詔奉戴日
    - 大詔奉戴日の行事——國旗掲揚——詔書奉讀式(敬禮、宮城の方を拜す、國歌齊唱、詔書奉讀、訓話、大東亞決戦の歌、敬禮)——作業——默禱——軍隊慰問——國防獻金等
    - 二、各種常會
- 五 年中行事と其の取扱

- 一、四大節慶祝行事(公的行事)
  - 祝日に於ける祝賀の至情の表現(挨拶、國旗、清掃、神詣、食物)——國旗掲揚式と其の禮法、特に國歌との關係について——萬歳三唱と其の禮法
  - 二、祭日に關する行事(公的、社會的行事)
  - 三、記念日に關する行事(公的、社會的行事)
  - 四、祭祀參拜に關する行事(校内行事)
    - (一)參宮
      - (一)明治神宮全校參拜——靖國神社全校參拜——吹上神社(氏神)參拜——簸川神社(土地神)參拜(二)遙拜
        - 樞原神宮(初二)——皇大神宮(初三)——靖國神社(初四)——宮中三殿(初五)——明治神宮(初六、高)——明治天皇御製奉誦
      - (四)桐ヶ丘神社(當校農園地域内鎮座)祭典——祭典準備——裝飾——祭典——奉納作品(燈籠、習字成績、圖書和歌俳句)——奠供(農作物、初稻)——奉納學藝及び演藝——奉納武道——奉納相撲
      - (五)田植式及び抄穂式——(六)慰禮祭——式場裝飾——祭祀次第——追想の詞
    - 五、體育衛生に關する行事(校内行事)
      - (一)運動會——開會式——運動——閉會式
      - 開會式次第と行事の禮法(整列、敬禮、校旗を迎ふ、國旗掲揚、宮城の方を拜す、優勝旗返還、開會の言葉)閉會式次第と行事の禮法——校旗の取扱——優勝旗の授受
      - (二)武道朝稽古、同寒稽古、同夏稽古——(三)擬戰、遠足
    - 六、文學藝能に關する行事(校内行事)
      - (一)學藝會
      - (二)音樂會
  - 六 行事の統一と組織
    - 一、行事教育の根本義
    - 二、行事の統一
    - 三、行事の組織
  - 七 行事の運営に關する諸問題
    - 七、展覽工作に關する行事(校内行事)
    - 八、飼育栽培に關する行事(校内行事)
    - 九、民間傳承行事(教科的行事)
      - 花まつり、端午節供、護齒デー、七夕、盂蘭盆會、七五三、節分、雛祭



## 國民科「郷土の觀察」指導の要點

佐藤保太郎

### 一、郷土の觀察の基礎

一年から三年までの國民科修身、國語にあらはれた國史、地理教材、同じく理數科自然の觀察で取扱つた郷土の自然物

### 二、國史地理と郷土の觀察

郷土の觀察は國史、地理の未分化のもので、國史地理に分化しないが、國史地理を包蔵してゐる。郷土に於ける生活體驗が生きた知情意を養ふこととなり、これが初五以上の國史、地理學習の基礎となる。故に、國史、地理理解の源泉は、常に教育上の郷土でなければならぬ。

### 三、郷土の觀察の教育的意義

- 1 親しみの深い土地——兒童の誕生、生育、現住してゐる土地、父祖以來生活して來た土地、兒童の現在の生活環境である。
- 2 自然と人との結合體——住民は山とか川、また暑さ寒さと融け合つて生活してゐる。(或は寒さを避け、或は寒さを利用しつゝ)
- 3 郷土は皇國の一部分を構成してゐる。

### 四、郷土の觀察の範圍と觀察事項

- 1 郷土構成の主要なもの
- 2 兒童の生活體驗にあるもの
- 3 教育的價値の高いもの
- 4 人の苦心努力によつて創造され、發展したもの
- 5 郷土に特異なものと全國共通のもの
- 6 郷土のまとめについて

### 五、教科用書と授業細目

- 1 題目は綜合的に
- 2 適當に順序を變へて
- 3 分量は餘り多くなく、項目も少く
- 4 我が校の例

### 六、指導過程の研究

- 1 十分準備をし、兒童には觀察の要點を指示する。
- 2 觀察は先づ観る。次に考へさせる。そして理解させ、また、作業的に處理させる。
- 3 整理は歸校後にする。これも大切な仕事である。

### 七、結論



體鍊科教授要項並に武道(柔道)について

小森林太郎

- 一、皇國民として必要な基礎的能力の鍊磨育成
  - 二、體鍊科各科目各教材の総合と特色發揮
  - 三、兒童の特性を考慮し鍛鍊養護一體の指導
  - 四、衛生養護の留意
  - 五、精神的諸徳の涵養
  - 六、團體的行動の慣熟と服從精神の養成
  - 七、國防能力の増進と盡忠報國の信念の培養
  - 八、日常の全生活に擴充具現
- 二、教授要項及び實施細目の要點
- 一、體操及遊戲競技に關する事項
  - 1、教材を能力別にしたこと。
  - 2、教材を學年別にしたこと。
  - 3、各學年に於て實施すべき全教材をあげたこと。
  - 4、類似の形式のものは一つに纏めたこと。
  - 5、名稱を全部日本名としたこと。
  - 6、姿勢を新に加へたこと。
  - 7、呼吸を新に加へたこと。
  - 8、水泳を新に加へたこと。
  - 9、徒手體操の教材を精選して一聯としたこと。
  - 10、行進遊戲を音樂遊戲としたこと。
  - 11、實施細目を定めたこと。
- 二、教練に關する事項

- 1、教練の要旨を理解すること。
  - 2、重點を把握すること。
  - 3、各教材の鍊成目標を明らかにすること。
- 三、衛生に關する事項
- 1、實際的訓練を主とすること。
  - 2、自己の身體についての關心を深からしむこと。
- 四、武道に關する事項
- 1、體鍊科各科の総合と柔劍道の統一
  - 2、教材を學年別に系統的に進路を示したこと。
  - 3、稽古を初六より課し得ることとしたこと。
  - 4、女兒に對する薙刀の教授要項は別に定む。
- 三、武道(柔道)の教材
- 一、基本
- 1、禮法 立禮、坐禮
  - 2、構 自然本體、右(左)自然體
  - 3、體の運用 前進、後進、側進、後方右(左)捌、前方右(左)捌
  - 4、當身技 前方突、側面打、後方突、斜上打
- 二、應用
- 1、極技 前突、摺上、横打、突上、後取、切下、突込
  - 2、投技 受身、浮腰、背負投、釣込腰
- 三、稽古
- 1、投技 既習の各技 膝車、送足拂、大外刈
  - 2、固技 袈裟固、上四方固
- 四、講話
- 1、武道の意義及目的
  - 2、修業の心得
  - 3、柔道術理
  - 4、柔道發達の概要
  - 5、上掲教材の外國民科教材と緊密なる連繫を保ち適當なる講話資料を選択して課すること。
- 四、體鍊科授業時間外の體鍊
- 一、體鍊的諸行事、團體訓練
- 二、課外に於ける體鍊



### 體鍊科武道(劍道)新教授要項に就いて

湯田幸吉

#### 一、序言

##### 二、武道(劍道)教材の新に示された要點

- 基本……劍道を修めるに當つて、先づ學ぶべき構、體の運用及び基本斬突の總稱である。
  - 應用……應用斬突であつて、攻撃に對する斬突である。
  - 稽古……道具を使用しての基本及び應用斬突の修練並びに稽古及試合を含めたものである。
  - 講話……國民科教材と緊密なる聯繫を保ち、實地修練に即して隨時講和資料を選択するのである。
- 1、基本及び應用の教材について
- 禮法は立禮を主體とし坐禮は初六から。
- 構は提刀と構刀の二つだけになつた。
- 體の運用は前進、後進で高等科に斜前(後)進を加へ左(右)開が省かれた。
- 基本斬突……面、右籠手、右胴、左(右)面、突。二段斬突は籠手から面、面から胴、突から面この三つに限定された。二段斬突以上は省く。この外に連續斬撃と切返しである。
- 應用斬突……面に對しての左(右)切落技及び拔胴が省かれ突技が加へられた。(突技を重視)
- 後退がなくなつて後進となる。
- 刀の上下動作は表の上からは省かれ、刀の振り方として適宜使用することとなつた。
- 斬突後「元へ」を省く。(殘心を自ら示して、元の位置に復してその技が完了)
- 號令は簡單に一定して細目に示さる。「撃て」が廢されて「斬れ」「突け」となつた。
- 應用斬突の號令は、説明示範等の後「始め」「止め」で實施する。
- 正面を面と簡單になつた。
- 初五には基本の反覆修練が必要のため應用を課さない。

動作といふ言葉を廢された。  
用具は用具の欄に示された。

- 2、稽古について
- 以上の如く精選され、道場内にては主として基礎修練をなし、戶外にて充分練ることを要望されてゐる。

學年	技	進	度
初六	一、眞劍に行ふこと 二、禮を正しく行ふこと	技の基礎練習を行ひ、懸稽古を主體とし 適宜互格稽古を行ふ程度とす	
高一	一、捨身にて行ふこと 二、眞劍の心構にて行ふこと 三、禮を正しく行ふこと	試合は適時稽古中に行はしむるを程度とす	
高二	一、勝ちて誇らず負けて挫けぬこと	互格稽古を主體とし試合は稽古中に行はしむる程度とす	

以上の如く稽古實施の範圍が擴張された。

- 3、試合について……右表の如く稽古中に取扱ふ。
- 校内に於ける試合を本體とすること、校外に於ける試合は教育的に企圖されたものへの出場は差支ないが、時間及經費を多く要することや、一部少數の修練(選士制度)はいけなない。
- 4、講話について
- 基準内容が明示されたこと、……イ、武道の意義及び目的(初五より高二まで) ロ、修行の心得(初五——高二) ハ、日本刀の概念(初五——高一) ニ、武道發達の概要(高一、一) ホ、劍道の術理(初五——高二)。
- 5、誦和について……今回は示してない、講話の際に修行の心得の内容として取扱ふことになつてゐる。
- 英傑のものがよく、兒童に容易に了解出来るもの。

#### 三、武道(劍道)の教授上の注意

#### 四、文部省講習會に於ける質疑應答の諸事項

#### 五、實際指導に當つての諸問題

- (三)、四、五は座談會の席にて)



### 國民科國語(讀み方)指導について

——高學年取扱を主として——

花田 哲幸

#### 一、序

特殊をねらひ、奇抜をよるこんだ時代は、滿洲事變を契機としてはげしく變貌した。われわれの情熱は國家の一點に集中し、われわれの行動はその一點からすばらしいいきほひでひろがりはじめた。しかもこのことを、大東亞戦争が、まづたく理窟なしに、きれいに決定してしまつた。

讀方授業においてもまた同じことが言へる。小學校時代の異説異論に弱體化しかけた教場が、國民學校を迎へて、たくましい自信を持つていたつた。それは、異説が整理され、教員であるだれもが、國語に内在する國民的思考、感動を通じて國民精神を涵養し、ほんたうの日本人たるべきの基礎的鍊成をすることであると道の道が確定したからである。そのために、言語教育(音聲言語、文字言語をふくむ)を重視し、言語と思想との一體觀を強調し、國語愛護尊重の實踐化に導くべきことが明瞭となつたからである。

#### 二、讀方教育變遷の概要

讀方教育の變遷を概観することは、國民科國語讀み方教育の眞意を側面より理解するためのたすけともなり、したがつてまたその方法を工夫する資料ともなる。

いつたい、主義、主張の變遷が、活字によつて清潔に並べられるときは、いかにも發展したかの如くわれわれを納得せしめる。しかし、新しい主張にまじつて、古い主義がとりのこされながら、どこかの教壇で息吹きしてゐるといふ事實は見逃せない。かくして第五回の主張の生まれた時には、五つの主義がおのおののいきほひに緩急の關係を持ちながらも、複雑に雜居してゐるのが通例である。この現象には協調が除外し、排他が行はれて、強力なる力も、美しさも期待することはできない。

- この用意のもとに、ここで變遷のあとをふりかへつてみることにする。
- 1、形式主義    2、内容主義    3、生命主義    4、形象主義    5、解釋學的方法

#### 三、國民科國語讀み方授業の構想

國語の理解力、發表力の修鍊は、國語教材のことに據つてなしとげられねばならない。その國語教材は、嚴肅なる國民的思考感動によつて統一され、ゆたかなる思想情緒によつてみだされてゐる。しかもその編纂は兒童の心身發達に即應してなされてゐる。すなはち、説話教材の童話、傳説、神話が歴史物語や歴史文學となり、日常經驗の再現とみらるべき生活教材が、その模倣遊戯の生活が工夫、説明、觀察の理科教材となり、自己の發展が未知の土地を求め、外國におよぶ地理的教材となり、また、經驗可能を地盤として擴充する軍事教材、實業教材、文化教材と發展する。

以上のことはすでに、ただ單なる反復讀みによつて、かなり教則の精神に通ふことの論理がなりたつてゐる。しかしさらにこれが効果を意圖的にあきらかにするために、授業といふはたらきの面から考察を加へるならば、

教材の本質からする授業前の郷土的事情からする授業中の教材に對する修鍊、操作といふやうに、教材を兒童の生活たらしめ、あるひは生活を教材たらしめるといふことの關聯が考へられる。

さらに授業中の本来的な操作として、  
讀んで、考へて、話すこと。書いて、考へて、話すこと。  
を擧げることが出来る。これが幼児期、兒童期の心意活動の特徴にもとづき、また四十分の時間があたへる兒童の注意力持續との關係において、授業展開を工夫すべきであることがうなづかれる。ここにおいて、  
いかに讀ませるか。いかに書かせるか。いかに考へ、感じさせるか。いかに話させるか。  
の具體的な問題に發展し、したがつて

教材の文題と要旨。要旨と構想。構想と描寫。描寫と語彙、語法、文字、音聲。  
等と、兒童を主體とする一聯の研究が必要になり、この研究が前にかへつて、授業をめぐる修鍊となつて、皇國民としての鍊成をなすことになるのである。  
しかしここまで來て、もつとも重要な原動力となるものは、教師の修鍊といふことである。すなはち、國家觀、國語觀、時局觀をたしかかなものにし、授業中の技術としては、態度、發問、板書、準備等に考慮をはらつて、その大成を希求しなければならぬ。このことは、ただちに學級經營全體の中にあつて、そのはたらきを表はすもので、一科目の分立のゆるされぬものもある。  
以上の心構で教師用書を熟讀するならばまた益するところがあるのではないかと思ふ。  
發表は、以上の筋書の中から個々の問題を取り出してなるべく具體的に説明するつもりである。



### 國民科國語綴り方・話し方指導の重點

田中豊太郎

- 一、綴り方指導の重點
  - (一) 綴り方指導上の考察點
    - 1、何を表現させるか
    - 2、如何に表現させるか
    - 3、適正なる指導
    - 3、何を表現させるか
  - (二) 何を表現させるか
    - 1、児童生活といふこと
    - 2、児童の見聞
      - (1) 何をみるか
      - (2) 如何に見るか
    - 3、児童の行動
      - (1) 如何なる行動をしてゐるか
      - 遊び 製作・作業 仕事等
      - (2) 如何に考へるか
    - 4、國民的自覺
      - (1) 眞實を描けばよいか
      - イ、見たまま、聞いたまま 「何を」の問題 明——暗 正——邪 善——惡
      - ロ、偽らぬといふことについて如何に見、如何に考へてゐるか
      - 健全な萌芽 明朗 建設的 理想化 國民的情操 國民的自覺
      - (2) 見方考へ方の適正なる指導
  - (三) 如何に表現させるか
    - 1、平明なる表現
    - 2、平明なる表現と正しい國語
    - 3、平明なる表現と兒童の表現
  - (四) 綴り方指導方法の適正
    - (1) 兒童文の構想腹案
    - (2) 表現手法の指導
    - (3) 記述形式の指導
    - (4) 推敲の指導

- 2、指導の發展段階
  - 1、教師用書に示されたる發展段階
  - 2、第一期の指導の重點
  - 3、第二期の指導の重點
  - 4、第三期の指導の重點
  - 5、第四期の指導の重點
- 二、話し方指導の重點
  - (一) 話し方指導の到達目標
    - 1、相手と場 — 躰のことば
    - 2、醇正なる話言葉 — ことばの躰
    - 3、ことばづかひ
    - 4、正しい発音
    - 5、調子 抑揚 強弱 緩急
  - (二) 話し方指導の基本的指導と読み方
    - 1、話し方指導と読み方
    - 2、話し方指導より見て読み方指導上重視すべきこと
      - (1) 読むことを中心とする
      - (2) 表現に即した話合
      - (3) 所謂、語句の取扱
      - ハ、從來の弊
    - (3) ことばを通して文意を習得する
  - (三) 話し方指導と綴り方指導
    - 1、話し方の基本的指導と読み方
    - 2、話し方指導と綴り方指導
    - 3、綴り方について話す
    - 4、綴り方について話す
    - 5、綴り方について話す
  - (四) 話し方指導と綴り方指導
    - 1、話し方指導と綴り方指導
    - 2、綴り方について話す
    - 3、綴り方について話す
    - 4、綴り方について話す
  - (五) 他教科、他科目の指導に就いて
    - 1、日常のことば、ことばづかひ
    - 2、日常のことば、ことばづかひ



## 藝能科工作に於ける機械教材

(機械器具の「操作・整備」の指導に就て)

新井 光 二

- 一、機械の「操作・整備」指導の必要
  - 1、国防・産業・國民生活の機械化  
生産の専門家によつて如何に優秀な機械が創造生産されても、一般國民が之を活用し得なければ機械は無意味な存在になる。
  - 2、機械の動的特質  
工藝・建築等の作品の機能は靜的であるが、機械器具は之を人間が動的に働かす時に於てのみその機能が發揮される。
  - 3、機械を本當に使ひこなすといふこと  
機械の或る部分が故障すれば、之を使ふ人間がその機械の他の部分と同時に役に立たなくなつてしまつてはならぬ。
  - 4、「操作・整備」と分解・組立
- 二、機械の「操作・整備」指導の内容
  - 1、一般機械の操作及び整備の指導
    - イ、操作教材
    - ロ、整備教材
  - 2、機械要素の構造機能の理會及び取扱ひ方の指導  
ネチ、ボルト、ナット、座金、ピン、キー、ベルト及び調車、齒車、鎖及び鎖齒車、軸受、クランク、パッキン

- 3、工具、材料の構造機能性質の理會及び取扱ひ方の指導  
ネジ廻し、各種スパナ、金槌、油差し、布、マシン油、グリース等。
- 三、機械の「整備」指導の要點
- 1、「構造及び機能の理會」と「正しい整備・取扱ひ方の修練」とを一體として指導し、理論に偏することなく、機械に慣れ親しませること。
  - 2、機械の材質を考へ、傷けぬやう機械愛護の精神を養ふこと。
  - 3、工具を尊重しその用途を厳守させること。
  - 4、整理整頓の良い習慣をつけること。
  - 5、共同作業は、ただ數人で同一の作業に従事するといふだけでなく、本當に呼吸が合はねばならぬ。
  - 6、分解指導の要點
    - イ、分解に先立つて構造機能の概要を調べさせること。
    - ロ、兒童自身で考へながら分解し得る部分は、圖又は記録に残しながら分解させること。圖は部品を一つ取外す毎に取外したあとの状態を描いておくがよい。
    - ハ、教師の示範に俟たねば分解し得ぬ構造の部分は、示範によりその順序方法を明確に記憶させること。
    - ニ、部品を取外す際、一つ毎にその機能を考へさせ、何故そのやうな形状・大きさに作られ、そのやうな材料が用ひられてゐるかについて分らぬ點は質問させる。
    - ホ、分解した部品は、取外した順に左右前後の位置を分り易く整理して並べさせること。
    - ヘ、同種類の部品が多數ある場合は、その數を算へさせること。
  - 7、組立指導の要點
    - イ、組立に先立つて各部品を掃除しながら點檢し、破損又は磨滅して使用に堪へぬ部品は新しい部品と取換へさせること。
    - ロ、固定すべき部分、運動し得るやうに結合すべき部分等の緊め工合を體得させ、磨擦部分には潤滑油を施させること。
    - ハ、組立てたならば試みに動かし、充分調整させること。



低学年の算数指導について(三年以下)

高木佐加枝

- 一、低学年算数指導の根本精神  
理数科の意義
- 二、算数教科書の活用  
算数と理科との関係について  
算数教科書は国定であること  
教材指導の順序  
反復練習  
作業教材の取扱について  
算数教科書を讀ませることについて  
三、数範圍の擴張と數觀念の養成  
實物を數へること  
數の集合を直觀すること  
順序數と集合數  
數の系列  
數の増減(加減)

數の構成

四、數計算の指導

- 1、暗算
  - (イ) 寄算、引算
  - (ロ) 掛算
  - (ハ) 割算
- 2、珠算
- 五、圖形・空間教材の指導  
方向・位置・配置・形  
靜的圖形と動的圖形  
工作との關聯
- 六、統計圖表の指導  
圖表と數表  
函數觀念の養成
- 七、量觀念の養成と計量の指導
  - (イ) 長さ
  - (ロ) 容積(體積)
  - (ハ) 重さ
- 八、金錢貨幣の指導
- 九、時間・曆・年齢に關する教材の指導
- 十、算數教育上の諸施設及び教具



藝能科習字教科書編纂の要點とその実践

水島修三

- 一、一貫せる指導體系(全學年を通じての)に據る取扱ひをなすこと。  
習字教育の系統  
各期の指導方針  
各學年の指導要項
- 主眼
- 教材の系統
- 二、各教材に對する輕重を考慮して教授時數を適當に配當すること。
- 三、本教材の取扱ひ  
各學年の主眼點から眺めて時間數を按排する。
- 四、補充教材の取扱ひ  
季節教材  
七夕教材  
書初教材
- 五、片カナ五十音圖及び平カナいろは歌の取扱ひ
- 六、基本點畫の取扱ひ
- 七、用筆教材及び結體教材の取扱ひ
- 八、自運教材の取扱ひ
- 九、鑑賞指導について  
手本の文字  
教師の示範文字

兒童作品中の佳作(同學級、他學級、上學年、他校)  
現代書道専門家の作品  
古人の名蹟  
偉人の墨蹟

- 一〇、練習に於ける臨書、背臨及び自運の取扱ひ  
背臨(三年から)  
自運(四年から)
- 一一、書話の取扱ひ(鑑賞と併せて)
- 一二、掛圖の取扱ひ  
鑑賞の指導  
用筆及び結體の指導  
要點に加朱  
運腕練習に利用する  
章法の指導(落款に對しても)
- 一三、郷土及び行事儀式と習字教育の實踐  
郷土に於ける墨蹟の鑑賞  
書初及びその展觀  
左義長  
七夕  
氏神様の獻額  
鎮守の納涼の額  
郷土的展覽會
- 一四、教授時間數について  
教則上から(特に四年以上の男)  
課外の練習
- 一五、書塾と習字指導の精神

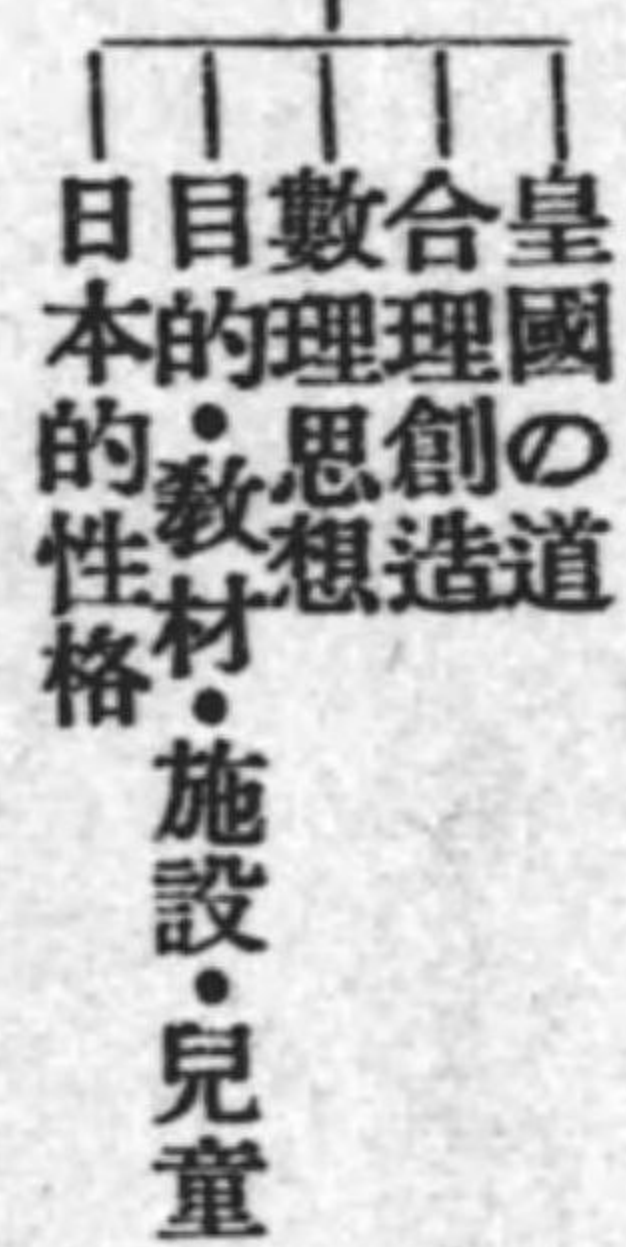


### 高學年算數授業の方法的解明

山本松七

#### 一、本日の授業について

#### 二、算數授業方法の由つて生ずるところ



#### 三、算數授業の方法

- 第一 算數授業に於ける考察・實驗・實測
- 第二 算數授業に於ける歸納的取扱
- 第三 算數授業に於ける演繹的取扱
- 第四 算數授業に於ける發見的取扱
- 第五 算數授業に於ける解析的取扱
- 第六 算數授業に於ける綜合的取扱
- 第七 算數授業に於ける發生的取扱
- 第八 算數授業に於ける檢證的取扱

#### 回饋の意義



- 初等科算數三
  - 大キナ數
  - 正一ツノ村
  - 學校ノ鬼ノ重サ
  - 計算練習
  - 小數
  - 身體検査
  - 體温
  - 池ノ深サ
  - 水平ナ面ト鉛直ナ線
  - 三角形
  - 平行線
  - 計算練習
  - 時刻ト時間
  - 木ノ高サ
- イロイロナ問題
- 地面ノマハリ
- 葉書ト切手
- トナリノ町マデ
- 計算練習
- イロイロナ問題
- 當番
- キレノ値段
- 紙
- 歩ケ歩ケ
- 計算練習
- イロイロナ問題
- 面積
- 鳥ノ草取り

#### 2、育成



#### 3、成果

- 正確
- 體得
- 實踐
- 合理創造
- 持久性
- 態度

#### 第九 算數授業に於ける鍊成過程

- 1、數理の認識
  - 觀察
  - 思考
- 2、數理の技術化
  - 反覆練習
- 3、數理の活用
  - 發展應用
  - 綜合的取扱

#### 四 第三、四期に於ける鍊成上の注意

高學年算數授業の方法的解明

二三

- 初等科算數四
  - 鶏ノ卵
  - 家族ノ人數
  - 平均
  - 買物
  - 正夫ノ工夫一
  - 生徒ノ數
  - 筆算ノ練習一
  - 正夫ノ工夫二
  - 私ノ家カラ
  - 筆算ノ練習二
  - イロイロナ問題
  - 計算練習
  - 直方體
  - 體積
  - イロイロナ問題
  - 慰問袋
  - 工作ノ材料費
- 正夫ノ工夫三
- 筆算ノ練習三
- イロイロナ問題
- 山ノ高サ
- マキト炭
- 計算練習
- 列ノ數
- 計算練習
- イロイロナ問題
- 形ト面積
- イロイロナ問題
- 速サ
- 分數
- 大工サン
- 小數
- イロイロナ問題
- 計算練習



### 藝能科圖畫指導の重要點

田原輝夫

#### 一、藝能科圖畫指導の根幹

1、見ることによる指導と表すことによる指導  
圖畫の指導には、自然及び作品の鑑賞形體色彩の説話教材等、見ることによる指導と、寫生畫・思想畫其の他、表すことによる指導とがあつて、兩者とも大切なことであり、また、兩者は切離すことの出来ない密接な關係をもつものであるが、その主體となるものは、表すことによる指導である。

#### 2、表すことによる指導

繪畫的表現 || 思想畫・寫生畫・臨畫  
說明圖的表現 || 思想畫・寫生畫・臨畫・用器畫  
應用的表現 || 圖案

#### 3、正しく見る力と正しく表す力との修練

前述の如き各種の表現の指導は、表現内容の擴充と表現技術の修練とをなすものであるが、この指導の根基をなすものは、正しく見る力と正しく表す力とを修練することである。實例を擧げて説明すると、繪畫的表現に於いて、風景を畫くとき、先づ、その風景の美しさを味はひ、然る後その美しさを表現する場合に於て、如何なる形の構成によつて美しく感ずるか、如何なる色彩の構成によつて美しく感ずるか、如何なる明暗の構成によつて美しく感ずるかなど其の風景を正しく見る力と正しく表す力との修練をなすものである。說明圖的表現に於いて、寫景圖を畫く場合、先づ山の形、森、道路などの位置大きさ、家屋散在の状態など其の景色を正しく見る必要である。そして寫景圖としての特種な表現方法によつて正しく畫くのである。つまり寫景圖は記號によつて表すのではあるが、正しく見る力と正しく表す力との修練をなすものである。應用的表現の圖案に於いても、工夫し考案する根源は、正しく見ること正しく表すことによつて修練された感覺であることを忘れてはならない。木の葉の寫生から木の葉の圖案化へ進み更に其の應用へと進む指導の一例は如實にこれを物語るものである。

#### 二、藝能科圖畫指導方法の主眼

以上述べたやうに正しく見る力と正しく表す力との修練は圖畫指導の根幹をなすものであり、國民的情操の醇化も一面に於いてこの指導を通してなされるものであり、創造力もこれを基礎として發展するものである。圖畫指導の一般的方法は幾多の項目を擧げて述べなければならぬ。また、學年により教材によつてもそれぞれ異なるものであるから、各々に就いて述べるの時間が無い。故に前項に述べた指導の根幹は何であるかに對して、指導方法の最も重要な點のみに就いて述べたい。

つまり前項に於いて、藝能科圖畫指導の根幹となるものは正しく見る力と正しく表す力との修練をすることであると結論した。然らば其の最も効果的な方法は何であるか、最も重要視しなければならぬ方法は何であるかに就いて考へなければならぬ。

#### 1、寫生の意義

○對象に則して正しく見る力と正しく表す力との修練をなすもので繪畫・說明圖などの根基をなすものである。○實物を對象とするものであるから、正しく見る力と表す力との修練をなすに最も効果的な方法である。

#### 2、寫生の過程

繪畫的表現に於いては、先づ對象の美を味はひ、對象を正しく見、これを表現するのであるが、更に作品の鑑賞と對象の鑑賞(觀照)とによつて、如何に表現すべきかが工夫され、此の過程が幾回となく反復される。說明圖的表現に於いては、先づ對象を正しく觀察してこれを表現(特殊な表現方法による場合がある)するのであるが、更に作品の反省と對象の觀察とによつて訂正され、此の過程が幾回となく反復される。此の如く反復による修練が出來ると共に、創造と鑑賞とが同時になされ、圖畫指導上重要な面を持つものである。

#### 3、寫生指導の方法

- 普通寫生 || 對象を正しく見正しく表現する。
  - 精密寫生 || 對象を精密に觀察し、精確に表現する。
  - 速寫 || 對象の要點を短時間内に把握し、速かに表現する。
  - 總合的寫生 || 形・色・明暗・構圖其の他に就いて綜合的に表現する。
  - 分析的寫生 || 形・色・明暗其の他に就いて分析的に表現する。
- 寫生に限らず圖畫指導の一般方則として鍛鍊的であること。

#### 三、結び



### 藝能科音樂實踐の要點

井上 武士

- 一、實踐の目標
  - 國民學校教育の目的……國民學校令第一條（皇國民の基礎的鍊成）
  - 藝能科教育の目的……國民學校令施行規則第十三條（藝術技能の修練に依る情操の醇化）
  - 藝能科音樂教育の目的……國民學校令施行規則第十四條（音樂指導に依る國民的情操の醇化）
- 二、實踐の要點
  - 歌唱指導
    - 樂典教授—歌唱ニ即シテ適宜樂典ノ初歩ヲ授クベシ
    - 鑑賞指導—基礎練習—發音練習—自然ノ發聲ニ依ル正シキ發音ヲナサシメ
    - （器樂指導）—聽音練習—音ノ高低、強弱、音色、律動、和音等ニ對シ鋭敏ナル聽覺ノ育成ニカムベシ
  - 三、歌唱指導の實踐
    - イ、儀式唱歌の指導
      - 國民學校令施行規則第一條
      - 儀式、學校行事の重視
      - 同 第十四條
      - 祭日祝日等に於ける唱歌の指導、學校行事及團體的行動との關聯
      - 兒童用教科書と儀式唱歌
      - ウタノホン上 うたのほん下
      - 初等科音樂一及二 初等科音樂三及四
      - 教師用書と儀式唱歌
      - 初等科一年 同 二年 同 三年及四年 同 五年及六年

- ロ、歌唱教材の指導
  - 必修教材と選擇教材
  - 歌唱教材の排列
  - 季節、行事、他科目等との關聯 音樂教育の體系
  - 發音の指導 發音上特に注意を要するもの 口語體と文語體
  - 指導法 聽唱法と視唱法 音名唱法と階名唱法
- 四、鑑賞指導の實踐
  - イ、鑑賞音盤の選擇
    - 各學年の曲數
    - 選擇の方針 程度の 日本的樂曲 敵性國的樂曲
    - ロ、鑑賞音盤の排列 排列の根本方針 重要教材の選定
    - ハ、鑑賞指導の方針 樂しく聽く 正しく聽く
- 五、基礎練習の實踐
  - イ、實踐の根本方針 獨自の體系
  - 歌唱指導との關聯
  - ロ、視唱指導の實踐
  - ハ、和音訓練の實踐
- 六、器樂指導の實踐
  - イ、設備と指導者
  - ロ、團體的行動との關聯



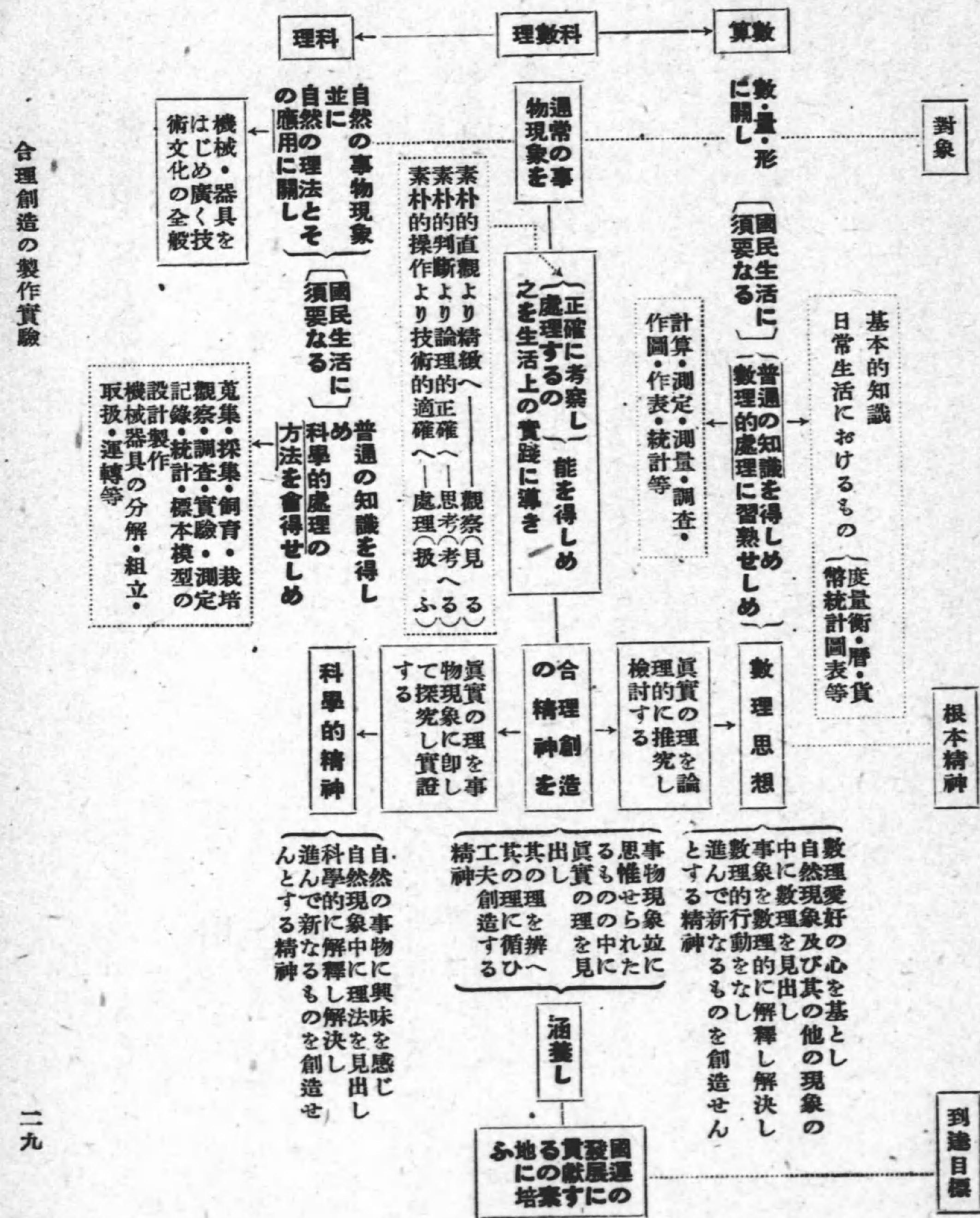
# 合理創造と製作實驗

## 橋本爲次

### ○製作實驗題材

- 風車
- グライダー
- 水車
- 帆掛舟
- 空気室付ポンプ
- 追羽根
- 天體望遠鏡
- 太鼓
- モーター
- 輕氣球
- 秤
- 風鈴
- 渦巻
- 水鉄砲
- ゴム動力舟
- ドングリコマ
- 平面鏡ベリスコープ
- ガリレオ式望遠鏡
- 磁石應用玩具
- 簡易ラジオ受信機
- 石鹼
- メートルグラス
- 紙鉄砲
- 風信儀
- 噴水
- ゼンマイ仕掛舟
- こまの色々
- 萬華鏡
- 絲傳話
- 電信機
- 線香花火
- あぶり出し
- 水時計
- 落下傘
- 紙鳶
- サイフォン
- 玩具蒸汽船
- 彌次郎兵衛
- 寫眞暗箱
- 笛のいろいろ
- 電話機
- マツチ
- ラムネ
- 日時計
- 竹トンボ
- 飛行機
- 笹舟
- 吸上ポンプ
- 起上り小法師
- 幻燈機
- 絃樂器
- 乾電池
- ヒヤばん玉
- アイスキャンデー

○藝能科ハ國民ニ須要ナル藝能的技術ヲ修練セシメ情操ヲ醇化シ國民生活ノ充實ニ資セシムルヲ要旨トス  
 藝能科工作ハ物品ノ製作ニ關スル普通ノ常識技能ヲ得シメ機械ノ取扱ニ關スル常識ヲ養ヒ工夫考案ノ力ニ培フモノトス





第一部 第一學年 國民科國語綴り方授業案 (十一月二十四日第二時、於普通教室)

授業者 田中豊太郎

題目 オテツダヒ

要旨 「ヨイコドモ」と關聯して兒童の日常生活の中より、お手傳ひに關する生活經驗を取りあげ、文章に表現させ、生活經驗を叙述する力を養ひ、お手傳ひを樂しむ心を培養する。

要項

- 一、「ヨイコドモ」と關聯して、この頃、どんなお手傳ひをしてゐるかについて話合をさせ、生活經驗を想ひ起す修練をする。
  - (一)、兒童各自に題材を決定させ、經驗の順序に従つて、できるだけはしく記述させる。――記述の指導――
  - (二)、カタカナで丁寧に書く。
  - (三)、知つてゐる漢字をなるべくよく使う。
  - (四)、句讀點や鈎や改行も、注意して書く。
- 二、兒童の文を、各自によく讀ませ、自己批評をさせる。
- 三、前項に掲げた諸點について――推薦の奨け――
- 四、兒童の文を材料として、讀んだり、話し合つたりして、お手傳ひの楽しさを味ははせる。

關聯

一、「ヨイコドモ」上「オテツダヒ」、二、「ヨミカタ」二「イモヤキ」三「コモリウタ」、三、「ヨミカタ」二「ケンチャン」(十一月教材)、四、「ウタ」ノホン「コモリウタ」

時間配當(凡二時間)

第一次、オテツダヒについての話合と文章の記述。要項一、二――一時間  
 第二次、兒童文の自己批評と讀み方、話合(要項三、四)――一時間  
 (備考) 元來、初等科第一學年の授業は、多かれ少なかれ、綜合的取扱をしなければならぬ。それは、兒童の生活の發達から考へても、また、國民學校の教科書の教材の選擇・排列から見ても當然なことである。

「オテツダヒ」といふ題目をとると、前に掲げたやうに、他科目にわたつて關聯をもつてゐる場合には、大きく綜合して取扱ふことが當然である。  
 この場合の時間配當は、十時間を超えるのであるが、ここでは、主として綴り方といふ角度から取扱ふ時間だけを示したのである。

本時(第二次)

主眼 前時間に書いた兒童文について概評を行ひ、各兒に自分の文を再び讀み返させ、脱字や句讀點や鈎など補はせて後、作者に朗讀させ、それを中心に簡單に話合させる。

準備

兒童文の中より比較的すぐれたものを選んで置く。

- 過程
- 一、誰がどんなお手傳ひをしてゐた、誰がどんな風に書いてゐたといふやうに、なるべく具體的に、概評を行ふ。
  - 二、各兒の文を讀みかへさせ、自己批評をさせる。
  - 三、自分の書いた文を、自分自分で、もう二三度讀んで脱字や句讀點や鈎の忘れたところを補はせる。
  - 四、兒童文の相互研究
    - (一)、作者に朗讀させる。  
 作者を教卓の前に出して、皆によくわかるやうに、しつかりした聲で、お話をするやうな心持で讀ませる。  
 聞いてゐる一般の兒童には、「靜にして、どんなお手傳ひをしてゐるか、どこが面白く書いてゐるか。」をよくとらへるやうに常に懸けてゐることを自覺させる。
    - (二)、一般の兒童に話合させる。  
 「どんなお手傳ひをしてみましたか。」  
 「どこが面白く思ひましたか。」  
 「あなたの方で、こんなお手傳ひをしたことはありますか。」  
 といふやうな問を契機としてなるべく多くの兒童に話合させる。この際、讀んだ文に即した話合と、讀んだ文から想ひ起したことの話合が起るであらうが、何れをも取りあげ、お手傳ひが、さまざまな方面にあることを自覺させることに力める。
    - (三)、教師の指導  
 兒童各自の話合を中心に、讀んだ文のよいところ、話合に出たことのよいところを獎勵する。  
 かういふ順序でなるべく多數の文を扱ふ。
  - 五、文を提出させ、後で評語をつける。  
 (備考) 具體的な兒童文は十一月二十日頃できるので、ここには大體の心構だけを示すことにした。



三年 國民科國語讀み方授業案 (十一月二十四日、第一時、於教室)

授業者 森 下 巖

題目 たぬきの腹つづみ(よみかた四、「八」)  
要旨 狸が月に浮かれて腹つづみを打つといふ、傳統的な空想を主題とした本詩を誦讀させて、その滑稽味豊かな詩情にひたらせる。

要項

- 一、八五を主體とする四句三聯の韻文である。従つて、韻律を生かした朗讀の指導に重點を置かなければならない。
- 二、文章、挿繪を中心として話合をさせたり、全詩を書寫させたりすることと相俟つて、  
第一聯の、「さあさあ、集れ、」と合圖の腹つづみを打つ親狸の滑稽な様子  
第二聯の、合圖に應じて「ぬつくりぬつくり」集つて来る子狸の面白い恰好  
第三聯の、まるい月、白い雲を背景として、大勢の狸が賑やかに腹つづみを打ちだした情趣を、兒童の主體的態度に即して味ははせる。
- 三、發音では、「たぬき」を「タノキ」、「腹つづみ」を「ハラズツミ」と誤らないやうに注意する。
- 四、新字「腹つづみ」「打ちくら」「親だぬき」、讀替「木かけ」の指導をする。
- 五、「腹つづみ」「打ちくら」「木かけ」「月にうかれて」等の成語的語句は適當に指導する必要があるが、「ぼんぼこ」「ぬつくりぬつくり」「すらり」「ぼつかり」等の擬聲、擬態語は、讀み重ねることによつて、直接にその味ひを感得させた。
- 六、「ことばのおけいこ」二十五頁(二)の童謡を讀ませ、本詩と聯關して理會に資する。

關聯

- 一、前課「かぐや姫」と同じく、仲秋の明月を背景としてゐる點に、教材排列上の用意が窺はれる。
- 二、狸は、よみかた三「うさぎとたぬき」の「かちかち山」の童話で、兒童には既に御馴染である。

時間配當(二時間)

第一次(本時) 詩の通讀指導、詩境の把握、朗讀練習

第二次 詩の朗讀、暗誦、詩情の鑑賞、「ことばのおけいこ」の取扱

準備 掛圖

第一 次

主眼 詩の通讀指導をした後、各聯の場面、光景を明らかにして詩境を把握させる。

過程

- (一) 題目指示
- (二) 通讀指導  
新字、讀替文字の取扱  
ゆつくりと、正確に讀ませる
- (三) 讀後の感想を自由に發表させる
- (四) 更に讀みを重ねる  
次第に韻律を讀み聲に現はさせる
- (五) 各聯の場面、光景をさぐらせる  
語句の指導と併せて
- (六) 朗讀練習



二部 國民科修身授業案 (十一月二十四日、第一時、於普通教室)

授業者 尾谷正二

題目 雅澄の研究(初等科修身二)

要旨

國學者鹿持雅澄の眞摯な研究態度を述べて、皇國臣民として進むべき學問の方向を明確に示すとともに、かゝる學者の努力に對する歴代天皇の御仁慈のほどを知らしめて、皇恩の廣大無邊を感得せしむ。

要項

- 一、鹿持雅澄の時代と人となり。
  - 二、雅澄は苦學力行の結果、萬葉集古義百三十七卷を書きあげたこと。
  - 三、萬葉集について。
  - 四、畏くも明治天皇は雅澄の研究をきこしめし大御心によつて萬葉集古義が官内省から出版されたこと。
  - 五、吾等は皇恩の忝さに感激し、奮闘努力を續け自己の使命に邁進すべきであること。
  - 六、我國の學問は、抽象的な眞理の探究に非ずして、あくまでも皇運扶翼を任務とすること。
  - 七、毎日の「私のきまり」をよく實行して、父母に注意されなくとも、豫習復習等をする習慣を養ふこと。
  - 八、書物は、最後まで讀破し、途中でみだりに讀み捨てにしないこと。
  - 九、書物を讀む時には姿勢を正しくして、精神を統一し、その内容をしっかりと身につけること。又文字を書く時はうづせにならないやうに注意する。
  - 十、書棚や机の中などは、何時でも、きちんと正しく整理して置かなくてはならない。
  - 十一、教科書を常に押し載く氣持で取扱ひ、よごしたりしないこと。
  - 十二、良書を選んで讀むこと(先生や兩親に選擇していただくのがよい)
  - 十三、「學校も戰場、教室は第一線」といふこと。
- 關聯 本課は「野口英世」と關係づけて刻苦勉勵以つて國威を世界に輝した事を想起せしめ、「日本は神の國」に於いて

親房が陣中にあつて「大日本は神國なり」との堅き信念を著書にした事を想起せしむ、直接には前課明治天皇の御徳と關係してゐる。次の乗合船とも關聯がある。

時間配當(三時間)

一、第一次 要項「一」より「六」に至るまでを中心として、大體一時間半乃至二時間を此れに當てる。

○雅澄の研究態度とその價值(本時)

○皇恩の優渥と我等の使命(第二時)

二、第二次 實踐指導を中心として全體をまとめつゝ、禮法的指導を強調し總括をする。

三、諸行事等の都合により三時間取扱の不可能な時は第一次の取扱で終る事にもなるから、第二次の取扱と第一次の取扱とは、全體的に統合されてなされるのが望ましい。此處では三時間の豫定で授業をすすめる。

準備 修身掛圖。版木萬葉集古義。大日本全圖、四國地方地圖。雅澄の略歴。

第一次(本時)

主眼 雅澄が苦難を克服して萬葉集古義を書き残した日本人的信念と氣魄に感激せしめ、現下學徒の心構を論ず。

過程

- 一、明治天皇御製奉誦
- 二、教育勅語奉讀
- 三、前課の復習——明治天皇は、特に學問教育の事に大御心を御かけ遊ばされたこと。
- 四、「萬葉集古義」の刊行
- 五、鹿持雅澄の生立
- 土佐の國(今の高知縣)……不便な地方
- 今から約百年前(第百十九代光格天皇江戸中期) 寛政三年生、安政五年死
- 六、雅澄の苦學力行……(兒童用書中より)
- 七、「萬葉集古義」の完成と雅澄の信念……皇國臣民の學問の意義
- 八、「萬葉集古義」の出版
- 九、兒童用書通讀
- 十、總括



六一年部 體鍊科武道(柔道)授業案 (十一月二十四日、第一時、於高師道場)

授業者 小森林 太郎

要旨 大外刈、送足拂を主とした稽古により、心身を高度に鍊成し不屈不撓の精神と必勝の信念を涵養する。

順序	類別	課目	鍊成目標並に進度	指導上の注意
1	教練	禮、集合、整頓		敏速かつ静肅に行はしむ。
2	徒手	臂の側斜上舉振・舉踵屈膝 頭の側轉廻旋 片臂上舉體の側屈 臂の前振上舉・體の前後屈 臂立伏臥・臂の屈伸		各動作を緩徐に十分屈伸ばさせ 全身諸關節を柔軟にする。
3	受身	後方の受身 前方轉廻の受身	立ちたる姿勢より行ひ得るに至らしむ。 思ひ切りよく駈歩にて行ひ得るに至らしむ。	腰を出来るだけ踵に近くつかしむ。 まろく大きく行はしむ。
4	當身技	側後前方 面方方 打突突	全力を打込み、前進連続及び結合して正確に打突し得るに至らしむ。	正確かつ敏速に行はしむ。

(分二)成鍊のり終		(分十三)成鍊の中			
體徒操手	極技	古		稽	
		稽古	約束	練習	基礎
片臂の上舉・體の側屈 臂の前振上舉・體の前後屈 臂の上舉側下	横前打、突、摺、突、上上	既習の各技	送大外、拂刈	送大外、拂刈	背頁込、腰投、腰
		稽古するに至らしむ。	體の運用を自由とし、攻撃側を約束して稽古し得るに至らしむ。	單獨練習より相對的に投げるに至らしむ。	浮腰の連續掛、釣込腰の交互掛 浮腰—背頁投の交互掛より其場にて投げるに至らしむ。 三舉動より一舉動で投げるに至らしむ。
		稽古するに至らしむ。	思ひ切りよく投げ合はしむ。 體の運用、技を自由とし攻撃側を約束して稽古するに至らしむ。	一方が掛けると、他方が必ず掛け返すことを行はしむ。	作りと掛けを正確に行はしむ。 特に崩しに注意すると共に受身を習熟せしむ。
		稽古するに至らしむ。	積極果敢捨身にて行ふこと。 技と攻撃側とを約束して双方より前進して正確に行ひ得るに至らしむ。	輕快に移動せしめ、技は左右共に積極的にくん／＼掛け合はしむ。	
			一足一撃の間合にて修練した後動的、應用的に修練せしむ。		
			狀況に應じ速度を加減せしむ。		
			落付いて静かな氣持で行はしむ。		

備考

1. 本兒童は初等科第五學年第二學期より、一週二時間の課外指導を受けし者なり。
2. 本授業案は正課時間の指導として立案せるものなり。
3. 時間の都合により授業案の一部を變更することあり。

一部六年體鍊科武道(柔道)授業案







五部 國民科國語讀方授業案 (十一月二十三日、第二時、於普通教室)

授業者 花田 哲幸

第十 稻むらの火  
要旨 本文の讀解を指導し、五兵衛の犠牲的精神、行動に感激せしめる。  
要項 一、今日の日本が、最高度に要求してゐるものに、犠牲的精神がある。五兵衛の態度には、個人主義的な考へを拂拭すべきやさやかな生き方が示されてゐる。時局下國民文學として、まことに好個の文字である。  
二、讀むもの心に食ひこむ劇的なすばらしい描寫である。文の順序は

五兵衛の豫感 五兵衛の義侠 津波の襲來 村人の感謝  
といふやうに、事件の推移に據つてゐる。もちろん起承轉結の型に嵌めて見る必要はないが、おのづからさうした傾向をとつてをり、また、靜動靜とつる文のいきほひも感じられる。しかしなんといつても五兵衛のはげしい人間愛が「いなむらの火」に象徴されて一貫してをり、文のすべての語詞がそこにむすびつけられ、またそこからひろげられてゐるところに、本文の力強さがある。  
三、新出文字は左の三字である。  
○救へる。(スクへる。支部。形聲文字。第一〇九六番目の新字。卷十二までに二十回表はれる。卷十一にて救助を習ふ。は行下一動。へから送る。)

○没して。(ボツして。水部。會意文字。第一〇九七番。七回提出。さ變動。しから送る。)

○薄暗く。(ウスぐらく。艸部。形聲。第一〇九八番。二六回提出。形容詞接頭語。くから送る。)

四、取りたてるほどの難語句はない。  
○稻むら(刈りとつたままの稻を積みかさねたもの) ○猶豫(ためらふこと。時間をのぼすこと)

○松明(脂の多い松又は竹などを束ね、點火して照明用に用ひる) ○のしかかる(はげしくおしかぶさる)

○失神(氣が遠くなること) ○もどかしい(氣がもめること) ○のしかかる(はげしくおしかぶさる)

五、注意すべき假名遣としては、よひ祭、しまふ、あふる、もえる、ゑぐる等である。  
關聯 没我の個人藝術が、日本をして世界的ならしめた前課の「柿の色」と共に、全體のために我を犠牲にした五兵衛の精神は、世界道義に通ふものである。ラフカチオ、ハーンがその麗筆によつて世界の英雄たらしめたことも故なきことではなく、共に國民精神反映の説話教材である。この犠牲の精神は、第一線においてはもちろん、實に時局

下われわれの最も重要な生活態度の根基をなすものである。本文讀解の感銘が日常生活に表現せられるやうにのぞんでやまない。

時間配當(四時間)  
第一次(本時) 全文通讀。感想發表。文の順序に關する研究。  
第二次(第二日第一時) 主として前半における表現を中心とする研究。  
第三次(第四日第一時) 主として後半における表現を中心とする研究。  
第四次(第五日第二時) 感想記述。國語練習。  
準備 小黑板

第一 次  
主眼 全文の通讀に慣れさせ、文の構想に流れる感情を感じとらせる。  
過程 一、讀み方。(全文を五人ぐらゐに分けて讀ませる。)

第二 次  
主眼 文の精神の特に表はれてゐる箇所について、書取、解釋、鑑賞の指導をする。  
過程 一、讀み方。二、話し方。(順序と表はし方との關係考察)

第三 次  
主眼 書き方。(前項の發表にもとづいて二名づつ板書させ、他は記帳)

第四 次  
主眼 解釋と鑑賞。(板書を中心として讀み方、文字、語意、語法等の研究をする)

第五 次  
主眼 讀み方。  
過程 一、讀み方。(讀みぶりについて注意する。)

二、感想の記述並に發表。(發表にもとづいて、特に關聯的方面を考へる)

三、國語練習。四、讀み方。  
備考(編纂趣意書より)  
原據は小泉八雲(ラフカチオ、ハーン)の「佛陀の島の落穂拾ひ」にある「生ける神」で、其の實話は、安政元年十一月五日紀伊國有田郡廣村を襲つた海嘯の災禍に際しての濱口儀兵衛(梧陵)の獻身的な活動である。八雲の文章は事實と相違する所があるが、儀兵衛の事蹟は、いはば八雲の筆によつて世界的に傳へられたのであり、又文學として力ある表現であるので、本教材は専ら其の文章に基づいて作製した。



第一・二女部 國民科國史授業案 (昭和十七年十一月二十四日、第二時、於普通教室)

授業者 宮腰他一雄

題目 文化の發達(高等小學國史下卷第四十九)

要旨 立憲政體の確立と相前後して發達した經濟と文化との状態を明らかにし、文明開化と國粹保存とによつて皇基を振起しようとした當時の風潮を會得し、國運隆昌の事實と所以とを國體民性にかへりみる。

要項 一 産業貿易の發達については、政府の保護獎勵と民間の工夫努力とを考へ、幣制については、兌換制度が經濟界の安定策であつた所以を明らかにし、それらの關聯的發展における原動力を究明する。

二 宗教については、信教の自由が許されて各宗教が國風にそむくことなく圓滿に發達するにいたつた経緯と現状とを明らかにし、教育については、普通・高等、又は女子・實業等、各般の發達普及の有様を見るときに、教育に關する勅語により國民道德の大本を示したまうた聖旨を奉戴する。

三 文學・藝術・風俗については、洋風の攝取と國粹の保存との史實をかへりみながら、所詮これらを融化止揚して、人類の享樂でなく各民族の康福を齎すべき、新文化の創造における皇國の使命を自覺せしめる。

四 興亞の先達たるべき資質實力を急速に鍊成獲得した當時の風潮には、世界共通の生活要望・自然科学的理法の尊重・資本主義社會の進出等の特色が考へ得られ、そこから生じた自由・平等・功利・現實・偏知・唯物等には、その反面たるべき統制・差別・道義・傳統・情操・信仰等があり、兩面を時所位に即して適宜に反省することは、東亞諸民族と同甘共苦以て各その處を得たる發展を指導するに示唆を受けることが多い。即ち建設的に考究する。

關聯 高等小學修身卷二第十一課學問「野村靖の昆蟲研究」、同第十四課德器「中村正直の西國立志編」、同第十六課公益世務「金原明善の天龍川治水」、同第二十五課斯の道、高等小學讀本卷一第六課祖母の物語、同卷二第二十四課福澤諭吉、同卷三第三課五百羅漢の畫幅、同卷四第十六課ポアツナード君の歸國を送る詞、高等小學國史下卷第四十

七外交の進歩と社會と變遷、同第五十五國運の進歩、同卷末年表。

時間配當 第一次 經濟界の進歩。第二次 信教の自由が許された、教育が興つた、教育に關する勅語をお下しになつた。第三次 新しい文學藝術が起つた、洋風の攝取と國粹の保存。

準備 第一回内國博覽會行幸啓の繪、米產額統計圖、生絲輸出額統計圖、皇后宮田植御覽の繪、我が國工業發展の鳥瞰表、化學工業の生産高統計圖、富岡製絲工場行啓の繪、同工場寫眞、四阪島製鍊所寫眞、明治天皇鑛山御覽の繪、明治初年以來の船舶増加統計圖、明治初年橫濱波止場寫眞、明治大正年間の輸出入貿易額統計圖、明治時代の内外商人の貿易額割合表、明治初年の國立銀行紙幣流通高表、明治初年米價表、普通銀行發達狀況表、造幣寮開業式圖、明治初年の貨幣、太政官紙幣、民部省紙幣、爲替會社發行洋銀券、兌換御治定の繪、宗教の現狀一覽、新島襄肖像、同志社寫眞、學校教育の現狀一覽、學校分布地圖、帝國大學寫眞、福澤諭吉肖像、大隈重信肖像、女子師範學校行啓の繪、華族女學校行啓の繪、東京高等師範學校行幸寫眞、侍講進講の繪、教育勅語御下賜の繪、能樂御覽の繪、狩野芳崖作慈母觀音圖、橋本雅邦作白雲紅葉圖、明治時代風俗寫眞。

本時(第一次)

主眼 明治中期までの經濟界の進歩状態を觀て、よきを採り惡しきを捨てて外つ國に劣らぬ國になさうと努めた國民上下の奉公精神、報國氣魄を偲ぶ。

過程 一 既習事項の整理 明治初年に希求せられた文明開化とは、どんな意味のものであつたか。

二 目的指示「經濟界の進歩の状态を觀、その所以を考へる」。教科書の通讀。

三 指導 一 産業革命後の歐米と對立するためには、我が國の産業方法をどのやうに導かねばならなかつたか。

二 農業はどんな方法によつて改良發達させようとしたか、ハ 工業は如何なる種類のものから順次發達したか、

三 明治時代の貿易は、前期と後期とでどのやうな變化があつたか、ホ 海運界の發達過程はどのやうであらうか

四 維新以來、政府はその財政を補ふのにどんな方法を探つたか、ト 兌換制度によつて經濟界が安定するやうになつたといふのはどういふわけか。

四 總括と反省 目覺しい經濟發展の原動力は何であつたらうか。大東亞建設に際し參考となる點はどこか。



六年部 國民科修身授業案 (十一月廿五日、水曜第一時、於教室)

授業者 川島次郎

題目 徳器

要旨 教育に關する勅語「徳器ヲ成就シ」の御趣旨を奉體し、徳を成し材を達して、國家有爲の人物となるやう、斷えず修養に心掛けさせようとする。大東亞戰爭に於いて米英を撃滅し、大東亞に於ける指導的地位を確保し、世界の新秩序を樹立せんが爲には、國民はあらゆる方面に互つて、大に修練の功を積まなければならぬが、其の中でも、國民の道徳的卓越は、最も肝要の事であらねばならぬ。この意味に於いて、こゝに孔子を中心として修徳を説き、大國民的修養に志させることは極めて意味の深いことである。

要項

- 一、孔子の生立と其の立志。
  - 二、孔子が鄙事に携つて、よく其の職を勤めたこと。
  - 三、孔子が一たび魯に用ひられると、忽ち民風が改まつたこと。
  - 四、孔子が齊魯の會見に於いて其の智勇を發揮したこと。
  - 五、孔子が魯を去つて諸侯に遊説し、志を得ずして魯に歸つたこと。
  - 六、孔子が魯に歸つて弟子と道を講じたこと。
  - 七、孔子の徳化が後世に及び、其の教は我が國にも傳はつて感化を與へたこと。
- 關聯 前課では國交を修めることの大切な理由を説き、殊に日滿支三國の強力緊密な提携によつて、東亞の安定は期され、世界の平和は望まれることを説いた。本課はこれと關聯して、國交も究極は國力の問題、國民の人格力量の問題に歸することを悟らせ、常に修養に心掛くべきことを説かうとするので、前課とは一體的に考ふべきである。孔子の事蹟については國語讀本卷十二に「孔子と顔回」があり、支那の事に關しては同じく讀本に「支那の印象」の課がある。國史地理の關聯は言ふまでもない。
- 時間配當 一時間づゝ凡そ三回。第一次(本時)は大國民的修養の必要を説いて孔子が夙く志を立てて修徳に力めた事蹟を語り、第二次は孔子の政治上教育上に於ける偉大な功績を中心としてその徳を稱へ、第三次は孔子の徳化の天下後世に及んでゐる事を中心として、その偉大なる人格を仰ぐと共に、進んで修養に心掛けさせる。

準備 孔子肖像 支那地圖 大學 論語

本時

主眼 大國民的修養の必要を説き、孔子が夙く志を立てて、修徳に力めた事を授け、我等は勅語の御垂示を奉體して、一意、成徳達材に心がくべきことを自覺せしめる。

過程

- 一、教育に關する勅語
  - 1 勅語奉讀
  - 2 勅語「徳器ヲ成就シ」の御趣旨
  - 3 御趣旨奉體の工夫
- 二、徳器を磨くことの重要な意味について
  - 1 大東亞戰爭に對する國內體制と國民の心構
  - 2 大東亞共榮圈の確立と大國民修養の必要
  - 3 大東亞に於ける文化の建設と、夙くから發達した偉大なる東洋文化
- 三、孔子の教——その我が國に及ぼせる影響
- 四、孔子の生立
- 五、孔子の立志
  - 1 孔子の時代
    - イ、太古の支那——黃河流域に於ける原始的封建制度とその統一
    - ロ、堯舜の世
    - ハ、夏(五百年)、殷(五百年)及び西周(武王、周公)
  - 2 孔子の立志
    - イ、孔子が夙くから王道を明らかにしようとする志を立て、修養に勵んだこと。
    - ロ、魯に仕へて大に治績を擧げたこと。
    - ハ、歿するまで修徳につとめ、又真心をこめて弟子を教育したこと。
    - ニ、孔子の偉大な感化
- 六、教科書の取扱
  - 1 第十七「徳器」通讀
  - 2 文段及び大意



高四男部 體鍊科武道(劍道)授業案 (十一月二十五日、第一時、於體育室)

授業者 湯田幸吉

目的 防具を使用して基本斬突及び應用斬突の修練をなし、基本と稽古とを接近せしめんとす。特に本時に於いては右籠手の斬撃に對し拔面の斬撃法を稽古の中に活かさんとす。

順序	類別	課目	用具	鍊成目標並に進度	指導上の注意
	基本	禮法 坐禮 前進、後進 斜前(後)進 刀の振り方 連続斬撃	脱面 脱面 竹刀	級長の號令にて一齊に行ふ 一步、二歩の数を同行ふ 結合して續けて二回行ふ 前進、後進、其の場にて行ふ 其の場にて、面及左(右)面を	凡てを整へ、心をおちつけて待つ 足尖は前方を向き、後進の際に左 踵が床につかざること 次第に速く、強く 冠りを大きく、最後迄正しく
	本	斬突	同	一足一刀の間合から交互に、充 分なる残心を示しつつ縁を切ら ずに次々で行ひ得るに至らしむ	防具に拘束されて姿勢、構、其の 他斬突が崩れることのないこと
	基本	(指足斬突) 面、右籠手 右腕、突	着面 竹刀		

考備	(5分)成鍊の終	(30分)成鍊の中			
		稽古		稽古	
稽古中非着面兒童には擊込臺及擊込棒に對する修練をなさしむ 時間の都合によつては講話を省くことあり (在籍三十五名、防具二十人分)	講話	斬古	應用斬突	應用斬突	應用斬突
		斬古	應用斬突	應用斬突	應用斬突
	刀の振り方 正坐 修行の心得 奉誦、坐禮	同	同	同	同
	脱面 竹刀	同	同	同	同
	膝屈伸にて呼吸も伴はしむ 黙想を加へる 旺盛なり氣魄を養ふ 一齊に奉誦し、節はつけない	抜面の技を稽古の中に數多く活 用せしむ	體の運用を加へ、撃ち方の指足 及び飛込み右籠手の斬撃に對 し、適正なる應じ方の出来る程 度に至らしむ	體の運用を加へ、大きく外し、 飛込んで斬突し得るに至らしむ	遠間より行ひ、速に残心を示し 得るに至らしむ
	漸次ゆるやかに行ふこと 肩の力を抜き、丹田に力を入れる 積極進取の態度を日常生活の上に 及ぼすやう	道場を廣く、大きく使はしむ 思ひ切つて撃ち込ます	間合に留意して、正確に應じ得る やう、先づ物打をきかせる 前進後進自由自在の練習が大切で ある	充分なる氣勢を伴ふこと 斬撃後直ちに體勢を整へること 前(後)進の場合に相互の間合に亂 雑を生ぜしめざること	



二部 國民科國語讀み方授業案 (十一月二十五日、第二時、於教室)

授業者 篠原重利

題目 南洋

要旨 子ども常會の日に、勇さんのうちで幻燈會があり、勇さんのおとうさんに南洋の寫眞をいろいろ寫してもらひ、その寫眞の説明をしていただいたことを述べた文である。

大東亞戦争が始まつてから、赫々たる皇軍の戦果が、南方諸地域にあがるたびに、驚喜した印象もなほ兒童の腦裡に鮮やかであらうし、本教材に對する兒童の興味は極めて深いものがあると思ふ。

この兒童の心に即して取材された本課を意義深く讀ませて、兒童を南洋の天地に導き、大東亞共榮圈に對する關心と、まだ見ない南洋の新天地を憧憬する念を養ひ、海外發展の精神に培ふ。

要項

一、文に即して發音を正し、文字・語句・語法を指導して確實に讀ませる。特にまだ地理的觀念の判然しない學年の兒童であるから、生活的な幻燈會によつて兒童自らが南洋への親愛感を自然に高めていくやうに意圖された表現に即して讀みを進めさせ、子どもたちが寫眞を見、説明を聞いて喜んだ氣持に共鳴共感させる。

二、挿畫を中心として繪を畫かせ、紙芝居の仕組によつて役割を定め、劇的に對話や説明をさせることによつて、一層南洋に對する興味と關心とを深くさせるとともに話し方の修練に資する。

三、新字・讀替文字・略字を中心として、書き方を修練する。

四、「は」「ひ」「ふ」「へ」のかなづかひに習熟させる。

開聯

一、よみかた四「金の牛」「滿洲の冬」により、遠く滿洲に思を馳せしめ、よみかた四「支那の子ども」、初等科國語一「支那の春」によつて遙か支那大陸に心を通はせたことを受けてゐること。

二、初等科國語三「濱田彌兵衛」初等科國語四「船は帆船よ」「燕はどこへ行く」、初等科修身二「日本は海の國」「山田長政」、初等科音楽二「山田長政」「船は帆船よ」等と遠く顧慮し、相俟つて海外發展の精神に培ふやうにする。

時間配當(七時間)

第一次 全文の通讀を指導し、概要を把握させる。

第二次 主として昭南島・南洋の海について讀みとらせる。

第三次 主として落下傘部隊・スマトラなどの石油・ゴムの木について讀みとらせる。

第四次 主として鬼ばす・タイ國の象・南洋の田植について讀みとらせる。

第五次 朗讀・書き方・かなづかひの練習をさせる。

第六次 挿畫を中心として繪を畫かせる。

第七次 紙芝居の仕組によつて、劇的に對話や説明をさせる。

準備 大東亞地圖、幻燈器、寫眞または繪畫(やしの木・ゴムの木・わに・くじやく・落下傘部隊)石油・生ゴム。

主眼 紙芝居の仕組によつて、役割を定め、劇的に對話や説明をさせて、南洋に對する關心と興味とをいよいよ深くさせるとともに、話し方の修練を圖り、發音を正し、語句語法を身につけさせる。

過程

一、前時までの學習を簡明に復習させる。

二、朗讀の修練

1、各場面に分けて。

2、地の文を讀むもの、勇さんのおとうさん・勇さん・正男さん・太郎さん・次郎さん・花子さん・春枝さん・ゆり子さんになるものなど役割を定めて。

三、漸次本を離れて、對話や説明ができるやうに導く。

四、紙芝居の仕組によつて、役割を定め、劇的に對話や説明をさせる。

1、八人一組として五回繰返し、全兒童を出演させるやうに努める。

2、話し方については、次の諸點に留意せる。

イ、正しい姿勢。

ロ、正しい發音・アクセント。

ハ、話の内容は本文に準據し、語句語法を體得させること。

ニ、場に應じた話しことばの調子。

○對話の場合 ○説明の場合

總じて南洋に對する憧憬の心が話の底に流れてゐるやうに。

3 聞き方については、

イ、正しい姿勢で靜肅に聞くこと。

ロ、一語一句をも聞き落さないこと。

ハ、友だちの話し方について美點をほめるとともに、注意すべき點を親切に擧げ、正しい國語の實踐に切磋琢磨すること。



體鍊科體操授業案（十一月二十五日、第一時、於運動場）

授業者 小森林 太郎

要旨 徒手體操より、歩走、懸垂、格力等の諸能力を鍊成して、強健な身體と忍耐持久、協同の精神を養ふ。

順序	類別	運動	始の姿勢	用具	鍊成目標並に進度	指導上の注意
(分八) 成鍊の始め						
11. 臂立伏臥	徒手	1. 臂の前上舉振・舉踵屈膝	直立		全屈膝で行ひ得るに至らしめる。	速度を加減して修練せしむ。
12. 臂脚の屈伸	徒手	2. 頭の側轉廻旋	開脚		前後廻旋より内外廻旋を行はしむ	側轉は一動作二呼間、廻旋は三呼間に動作は緩徐に大きく一動作二呼間に行はしむ。
13. 臂の側舉振・舉踵屈膝	徒手	3. 臂の前後廻旋	直立		一呼一動の要領で行ふに至らしむ	臂及び體を上方に引伸ばして屈げしむ
14. 掌の外反・胸の後反	徒手	4. 臂の斜上舉・胸の後屈	開脚		一呼一動の要領で行ふに至らしむ	二回反動的に前屈し、體を起したる時掌を外に反へし胸を軽く反らしむ。時落着きて緩徐に行はしむ體の上方より十分屈げしむ。
11. 臂立伏臥	徒手	5. 片臂の上舉・體の側屈	開脚		一呼一動の要領で行ふに至らしむ	頭の側轉を加へ、臂を水平に振り廻はし十分側轉せしむ。
12. 臂脚の屈伸	徒手	6. 臂の下垂・體の前屈	直立		體の斜前屈に至らしむ。	十分側轉せしむ。
13. 臂の側舉振・舉踵屈膝	徒手	7. 臂の上舉・體の後屈	開脚		臂を體側から直ちに斜上舉振し得るに至らしむ。	十分側轉せしむ。
14. 掌の外反・胸の後反	徒手	8. 臂の前舉側振・體の側轉	直立		前後屈共に三呼一動の要領にて行ふに至らしむ。	伸ばす氣持で行はしむ。
	徒手	9. 臂の斜上舉振・屈膝舉股	直立			前屈は早目に、後屈は緩徐に且十分屈げしむ。
	徒手	10. 臂の下垂・掌の外反・體の前後屈	開脚			

(分二) 成鍊のり終		(分十三) 成鍊の中		
教練	徒手體操	格力	懸垂	歩走
集合、整頓 部隊の敬禮、解散	臂の上舉・體の後屈 臂の側舉振・舉踵屈膝 掌の外反・胸の後反	引合 押合	懸垂跳上 脚懸上	各種歩走
	開脚 直立 直立	大圓 小圓 直線	低棒 低鐵	直立 直立 直立
		衣服を纏ましめさず、大圓及び小圓にて行はしむ。	上りて直ちに姿勢を正さしむ。一回の振りにて上り得るに至らしむ。同右。	隊伍を整へ歩調を揃へ歩き得るに至らしむ。我慢して五分間走るに至らしむ。
		倒れた者ある時は直ちに中止せしむ。手は堅く握り合はさしむ、手及び足は適宜代へて行はしむ。	踏切地點は姿勢の崩れざる範圍にて漸次前方に進ましむ。下り方は適宜定む。	足の後出は左右交互に行はしむ。元氣よく行はしめ、適宜呼唱又は掛聲をかけしむ。速度及び強度を適宜加減せしむ。呼吸に即し、速度強度を適宜加減せしむ。
		一舉動三呼稱の要領で緩徐に行はしむ呼吸に應じ速度及び強度を加減せしむ		歩調を取り、止め或ひは急ぎ歩かしむ兒童の心身の状況に應じ弱き者には適宜速歩を行はしむ。
		靜肅敏速に行はしむ。		

備考 雨天の際は懸垂の代りに、前轉(數物)を行ふ。場所は體育室にて行ふ。衛生教材として、薄着について簡單に話をす。

體鍊科體操授業案



三部 國民科國語讀み方授業案 (十一月二十五日、第二時、於三部四年教室)

授業者 青木 幹雄

題目 小さな傳令使

要旨

危急緊迫の戦場にあつて、果敢不屈よくその任務を完ふした軍鳩の行動に、感動を深からしめると共に、動物愛護の心情に培ひ、國防の觀念を強調せしめる。

要項

- 一、小傳令使の行動に、深い感動をよせしめること。
- 二、その感動を、各兒の讀み聲の上によく表し得るまでに、讀みを修練させること。
- 三、この感動に、喚び覺まされる兒童の内面的緊張を重視すること。
- 四、この際軍鳩に對する理解を深めしめること。
- 五、新出文字(記載略)特に留意すべき幾つかの語句(記載略)を、各兒の確かな力と爲さしめること。

關聯

既習小學國語讀本卷五「犬のがら」は、まだ容易に想起される教材であらう。新讀本卷四に於ける「大演習」「廣瀬中佐」卷三「日本武尊」「錦の御旗」「東郷元師」等一連貫くものを見ることが出来る。尙「燕はどこへ行く」は又別の意味で相通するものがある。「軍犬利根」は適當な機會に讀ませたい。

時間配當(四時間)

- 第一次 讀みの修練 (新出文字、發音、アクセント) 文章の概観
- 第二次 讀みの修練 (語句の註釋、書寫) 補説(滿洲事變) 軍鳩訓練

準備

滿洲國地圖 (部分略地圖—兒童作)  
軍鳩訓練に關する寫眞その他 (兒童蒐集・展示)

第三次

文意の究明 (讀む、書く、話すことの修練によつて讀解を深くする)

第四次 整理 (讀む、書く、話す力を確實に、自由に、ゆたかに)

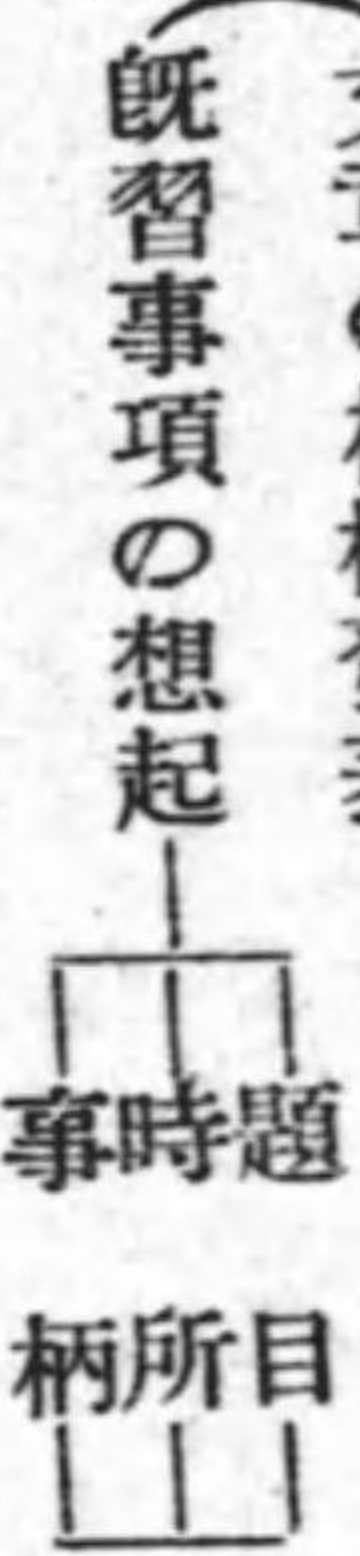
主眼

より明かに文意を把らせることに依り、この小傳令使の行動を、更に深い感動をもつて讀み得るやうに指導を進める。

過程

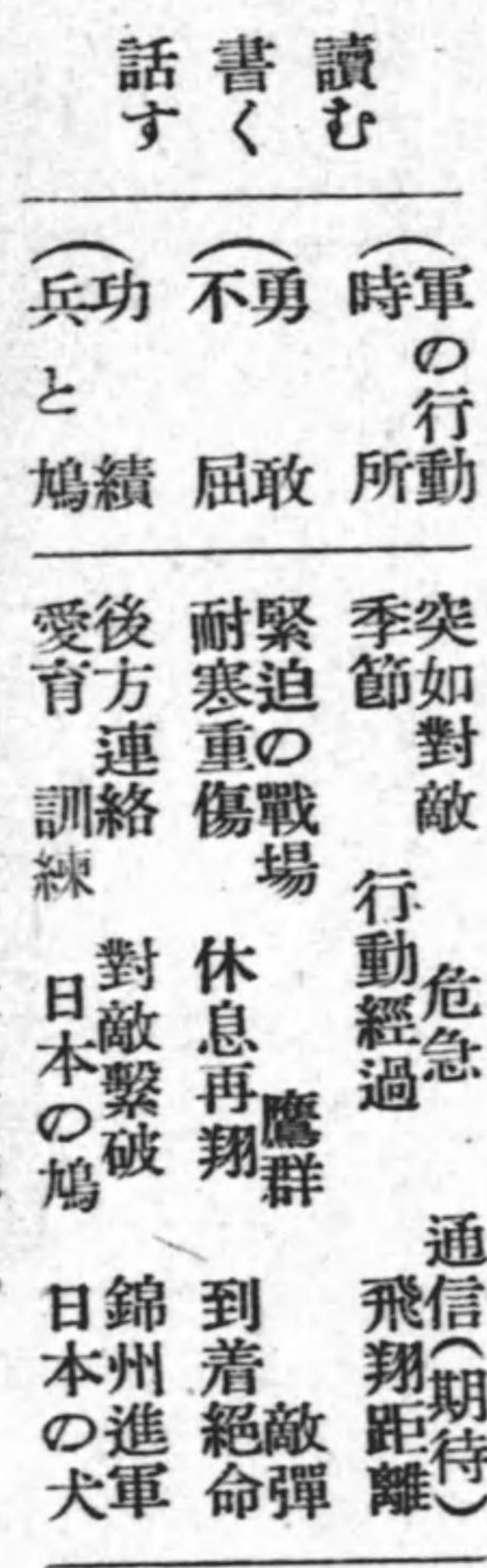
○通讀 文節毎に代つて讀む、力一杯で讀み、心耳を澄して聴く。

○復習



○發表 讀後の感想 (文章について。感動點について。聯想的に思ひ浮ぶこと。文章とこの感想との照應。)

○小傳令使の行動を中心に讀解を深くさせる。



○整理 讀む 感動を盛つて、心耳を澄して聴く。

三部四年國民科國語讀み方授業案



二部 五年 國民科國語讀み方授業案

(十一月二十五日、第一校時、於普通教室)

授業者 小島忠治

題目 柿の色(小學國語讀本卷十・第九)

要旨 酒井田喜三右衛門が夕日に映ゆる柿の色に暗示を受けて、赤色焼附の研究に苦心を重ね、遂に成功した次第を讀み味ははせ、名工の藝術的心境にふれさせると共に文語文の讀解力を鍊る。

要項

- 一、文に即して新出文字・讀替文字及び語句・語法を指導し、文語文の讀解力を鍊る。
- 二、難語句や文語文の障壁を突破して想と表現の妙味を把握せしめる。
- 三、讀みを深めて名工の心境にふれさせ、何をするにも人並以上にすぐれたことを成遂げるには、生やさしいものでないことを感得せしめる。

關聯 名工、喜三右衛門の苦心と功績は修身の「産業を興せ」に關聯し、文表現の文語文による描寫は讀本卷十の「明治神宮」「春淺し」「熊野紀行」等に關聯する。

時間配當 (三時間)

第一次 全文の通讀・概觀

第二次 全文の精讀と前半の深究(本時)

第三次 後半の深究と全文の味讀

準備 九州地方の地圖、柿右衛門風燒物

第二次 (本時)

主眼 全文を精讀し文の構想を把握せしめ、更に前半(四十九頁まで)を深究し、喜三右衛門の夕日に映ゆる柿の色を求めて止まぬ苦心と困窮惡罵に屈せざる山の如き姿を感得せしむ。

過程

一、文の構想に留意して通讀

二、分節の吟味 三節、四節、五節

三、分節指名讀と節意の把握

第一節は喜三右衛門が夕日に映ゆる柿の色を陶器に燒附けたいと思ひ立つたこと。

第二節はこの目的を達するために苦心を重ねたこと。ここは二段に分れ、一は目指す色を現はすことが出来ないで幾度もやり直した。一つは資金も生活費もなく、弟子たちは見限つて去り、世人からはあざけりのでられたが動かざること山の如く研究をつづけたこと。

第三節は多年の苦心は遂に報いられ見事に成功したこと。

第四節は柿右衛門といふ人物を説明し、世界的な名聲をのべて文を結んでゐること。

四、文に即して前半の深究

指導的な讀みに従つて語句の意味を深め、主要語句を書寫せしめる。

○窯場。縁先に休らひぬ。墨畫。鈴なり。珊瑚珠。見とれる。ふと何思ひけん。「お、それよ。」

○赤色の燒附。熱中。日毎に燒きては碎き、碎きては燒き。果はたゞばう然として歎息するばかりなり。

○工夫に心を奪はれる。其の日の生計も立ちがたく。弟子たち。人は……されど、喜三右衛門は動かざること山の如く、一念ただ夕日に映ゆる柿の色を求めて止まざりき。

五、前半の默讀(微音齊讀)感想發表——次時への連絡——

備考

指導上の留意點

○文語文ゆゑ讀みに特に力を注ぎ、描寫風に表現せられてゐる第一節、第三節は場面が彷彿とするやうに讀むこと。

○語法・語感に留意し文語文の妙味を味ははせること。

○言語發表(話し方)は正確に特に語尾を明瞭にすること。なほ女兒は女兒らしい話しぶりに留意すること。



三部 六年 國民科地理授業案

(十一月二十五日、第二時、於國史地理教室)

授業者 佐藤保太郎

題目 第八アジャ洲 六東南アジャ

要旨 この地域は大東亞共榮圈の主要な部分を占め、これまでタイ以外は英、米、蘭、佛、葡の諸國に分屬してゐたが、大東亞戰爭勃發後、早くも英、米、蘭の屬領は皇軍の占領するところとなつて、既に軍政を布き、タイ、佛、葡は我が眞意を解し、親善、協力につとめてゐる。然し、直接の戰場として未だ油斷はならぬ。初六、過渡期の地理教育として、この地域の自然、資源、住民及び我が國との關係等を稍詳しく調べて、大東亞建設の事業を具體的に理解させ、八紘爲宇の我が國の理想實現を如實に感得させると共に、長期に亙る此の困難な大事業の繼承者としての覺悟を一層強固ならしめるにある。

要項

現行地理書を國民科地理の精神によつて、増補修正して、初六の地理教材を次のやうに選擇排列する。即ち、第一學期、十三週、二十六時間を臺灣(七)南洋群島(一)朝鮮(七)關東州(一)大東亞及アジャ(一)滿洲(九)とし、第二學期、十六週、三十二時間を支那(十二)蒙疆(二)東南アジャ(九)印度(四)シベリヤ(二)西アジャ(二)とし、第三學期、九週、十八時間を濠洲(四)太平洋の島々(二)北米(四)南米(二)アフリカ(一)ヨーロッパ(四)國民の覺悟(二)とするのである。そして、第二學期は八月下旬から十月上旬までに支那を、十月中旬から十一月下旬の間に蒙疆、東南アジャを、それから十二月末までに印度、シベリヤ、西アジャを學習させるやうに立案してゐる。東南アジャの指導は、次の要項による。

一、大東亞共榮圈中の南方圏について、二、我が國との歴史的關係回顧、三、獨立國タイと英、米、佛、蘭、葡の屬領、四、英米支配下の南方地域、五、大東亞戰爭後の南方圏、六、各地域の自然、資源、住民等、印度支那、マレー、東印度、フィリピン、七、大東亞新秩序建設の實相について

關聯 初修身 一、十一山田長政、初國語 二、八南洋、初國四、一御朱印船  
時間配當 (九時間)

- 第一次(二時間) 南方圏總論
  - 第二次(三時間) 印度支那—佛印、タイ、ビルマ
  - 第三次(二時間) マレー、昭南島
  - 第四次(三時間) 東印度諸島—スマトラ、ジャワ、ボルネオ、セレベス、パプアの島々
  - 第五次(一時間、本時) フィリピン
- 準備 世界地圖、世界氣象圖、大東亞共榮圈地圖、フィリピン地圖、マニラ、ダバオ寫眞、マニラ麻標本

主眼 我が國とフィリピンとの關係に重きをおき、特に農業、水産業等資源の開發には我が國人の力の大なりし事を知らせ、現在、南方圏の一部として大東亞建設に如何なる役割を持つてゐるかを各方面から考察させる。

過程

- 一、位置の觀察  
日本から見て—臺灣、南洋群島から見て—大東亞圏のどの邊か
- 二、フィリピンの沿革  
我が國との歴史的關係、米國の支配にあつたフィリピン、大東亞戰爭とフィリピン作戰、フィリピンの現情
- 三、風土、氣候の大要  
島の形狀、山脈と火山脈、深い海溝、風向と雨、雨季乾季の別、颱風について
- 四、住民の生活  
面積の割に人口が少ない、フィリピン人の民族性、宗教、支那人の生活、我が國人の活動
- 五、豊富な資源  
農産—米、甘蔗、砂糖、ココ椰子、コブラ、マニラ麻、煙草、米の外は輸出品  
礦産—鐵、金、銅、クロム、鑛  
林産—ラワン、鮑等
- 六、我が國人の居住活躍地  
マニラ、首都、貿易港、軍港(キャビテ)、交通、通信の要地  
ダバオ、邦人の集團居住地、マニラ麻栽培  
イロイロ、パナイ島の中心都市  
セブ、マゼラン終地焉
- 七、總括  
大東亞建設に對するフィリピンの地位考察—位置、資源、民族等の上から



二年 藝能科習字授業案 (十月廿七日、第一時)

授業者 水 島 修 三

題目 大空あらわし  
要旨 大東亞戦争下の習字教材として相應しき本教材の取扱ひに於て、書法上は特に「冠」の用筆及び「空」の結體を指導し、又「あらわし」の四字を修練する。なほ鑑賞上は、暢達、元氣等について會得させる。

要項

一、文句について

本教材は、大東亞の空を雄飛して神國日本を護る精銳な我が陸海軍の軍用機を讃へたものである。

二、書法上特に留意する點

大用筆 左拂ひ、右拂ひ

結體 右拂ひの起筆の位置、概形(おむすび)

空 用筆 第一畫の送筆及び收筆、第二畫の送筆及び收筆、第三畫の「オレ」及び拂ひ

結體 第四、五畫の分位、一般の布白、中心を整へること

あ 用筆 第二畫の反り、第三畫の轉折と運筆、筆脈の貫通

結體 下部左右の布白の關係

ら 用筆 點に續く縦畫の反り、「ヲレ」及び「マゲ」の運筆と收筆

結體 首を長くすること

わ 用筆 縦畫の起筆、收筆と反り、第二畫の起筆及び折返しの運筆

結體 左方を緊密にし、右方を寛裕に作ること

し 用筆 起筆の沈着と收筆の輕快

結體 左に反ること

三、鑑賞上特に留意する點

のびのび 「大」の左拂ひ及び右拂ひ、「し」の運筆

其他 「空」の終りの横畫、「あ」の第三畫、「わ」の終りの「マゲ」  
元氣 「大」の左拂ひ及び右拂ひ  
「空」の「冠」

關聯 時局と結び、大東亞戦争に於て、米英及び重慶擊滅に目覺ましき武勳を建てつつある陸の荒鷲や海の荒鷲に對する兒童の認識を深めたい。

時間配當 (三時間)

第一次 教材の意義と手本文字の鑑賞並に「大空」の指導(本時)

第二次 「あらわし」の指導

第三次 全體練習後清書

準備 兒童 手本及び練習用具(筆・紙・硯・墨・下敷・文鎮・筆卷・雜巾等)

教師 手本掛圖、教材に因む寫眞、示範用具(示範用大筆、硯、墨汁、示範用紙、ピン等)

批正用具(朱筆及び朱墨)

第一次

主眼 時局に因む本教材を取扱ふに當り、先づ文句について吟味し、次に手本文字の鑑賞をなして暢達、元氣等を會得させ、進んで漢字「大空」の用筆及び結體を指導する。

過程

一、用具の準備及び水注ぎ

二、磨墨及び潤筆

三、目的指示

四、教材の讀方及び意味の取扱ひ

五、手本文字の鑑賞指導

六、「大」の指導 試書と共同批正、示範と用筆結體の説明、練習と批正

七、空の指導 「冠」の取扱ひ、示範及び説明、練習及び批正

八、「大空」を臨書させ、佳作につき鑑賞及び批評を行ふ

九、本時學習事項の反省と次の豫告

一〇、收具



### 二部 理数科理科(自然の観察)授業案

(十一月二十七日、第一時、於理科教室)

授業者 多田勉

#### 題目 寒暖計

要旨 寒さに向ふ時期には、温いものに親しみを感ずるものである。

本課に於いては「二十一 湯わかし」とも連絡し、フラスコに水を入れてあたためながら、水の様子の変るのを見せたり、あたたかさの變るのをしらべさせたりすることを通じて、寒暖計の使ひ方になれさせ、寒暖計のはたらきをわからせるとともに、ものごとを注意深く見たり扱ったりする態度を養ふ。

尙、この機会に、毎日の氣温に注意するやうに仕向ける。

#### 要項

- 一、田園教場に於ける「湯わかし」について話し合ふ。
- 二、本時の學習について話し、教室に於ける湯わかしの熱源としては、何がよいか考へさせる。
- 三、湯わかしの装置を見させ、用具の名稱や使ひ方を知らせる。
- 四、フラスコの水をあたためさせて、その變化を観察させる。
- 五、計器の必要を感じさせ、溫度計を使つて湯や水の溫度を測らせる。
- 六、溫度計の使ひ方を知らせる。
- 七、寒暖計について話し合ひ、毎日の氣温に注意するやうに仕向ける。

#### 關聯

- 一、「自然の觀察 四」の「二十一 湯わかし」の發展として本課を取扱ふ。
- 二、「つづりかた」に於ける「かんたんけい」と連絡させる。

#### 時間配當 一時限

準備 フラスコ、フラスコを支へる装置、アルコールランプ、ピーカー、溫度計。

#### 過程

- 一、理科教室に於いて、一つの机に數人についた場合、特に實驗觀察の場合の心掛を話してきかせる。  
イ、おしやべりをしないこと。  
ロ、用具を丁寧に扱ふこと、等。
- 二、本時は、教室で湯わかしをして、いろいろのことを觀察するといふことを知らせ、湯をわかすには、何の火を使つたらよいか考へさせる。  
イ、たき火、ロ、炭火、ハ、ガスの火、ニ、アルコールランプの火、等。
- 三、用具の名稱や使ひ方を知らせる。
- 四、アルコールランプに火を點せさせて、湯をわかさせる。
- 五、觀察したことに於いて話し合ひをする。
- 六、だんだん熱くなると手でさはることができないことから、どうして熱さを測つたらよいか工夫させる。
- 七、溫度計を配布する。
- 八、溫度計の使ひ方及び溫度計の構造を簡單に知らせる。
- 九、湯・水及び湯に水を混ぜたものの溫度を測らせる。
- 十、溫度計の目盛の讀み方を玩味する。
- 十一、教室内の溫度を寒暖計によつて測らせる。
- 十二、寒暖計によつて屋外の溫度を知らせる。
- 十三、學校や家庭の寒暖計によつて、毎日の氣温に注意するやうに約束する。
- 十四、後始末をさせる。

#### 備考

- 一、熱源とする火は、火鉢の數や大きさが適當でない關係から、アルコールランプを使用することにした。
- 二、溫度計の原理に深入りすることは避ける。
- 三、實驗用具、特にガラス器を丁寧に扱ふやうに躰ける。



二部 四年 藝能科工作授業案

(十一月二十七日、第一時、於工作教室)

授業者 松原郁二

題目 自動車 (工夫製作)

要旨 紙、細木、竹等各種材料の総合的構成によつて自動的に走る自動車を作らせ、一般自動車の構造を理會せしめると共に機構構成力と工夫考案の力とを養ふ。

關聯 初三工作「自動車」機械ノアツカヒ方

時間配當 (十二時限)

第一次(二時限) 設計製圖

車體部と車臺部とを區別して正投影圖法(側面圖及平面圖)によつて畫かせる。

第二次(二時限) 車枠、軸受の製作

第三次(二時限) 車軸、車輪、自動装置の製作

第四次(二時限) 車體部展開圖製作 (本時)

第五次(二時限) 車體構成及取付

第六次(二時限) 彩裝完成、自動裝置試験

第四次

主眼 設計圖によつて車體部及び附屬部品の展開圖を畫かせ、正しい製作の過程を指導する。

準備

用具——教師用及兒童用製圖用具

材料——中厚紙、設計圖

教具——投影圖と展開圖との關係を示せる參考圖、自動車の寫眞其他

過程

一、用具材料の整備

正しい製作表現をするために先づ用具材料の整備を完全にする。

○工作教科書・設計製圖・製圖用具の用意

○中厚紙の用意

○鉛筆の削り方注意

○机上整頓

二、展開方法の指導

如何に展開すればよいかについて、各自の設計圖を中心にし、工作教科書の自動車「ソノ一」「ソノ二」を参照し、更に教師提示の參考圖によつて、その一般的な方法を指導する。

○展開圖を理會させるには、内から外へ、部分から全體へ次々と接ぎ足してゆくやうにして理會させる。

○同質中厚紙の糊代は用ゐないで別の目貼用紙を用ゐるやうにする。

○切る部分と折り曲げる部分を確實にする。

○設計圖に示された正投影圖的關係に於て實長の表れてゐない線分について特に注意する。

三、展開圖の畫き方研究

中厚紙の上に展開圖を畫くには、如何なる順序方法によるのが一番正しく出来るかについて指導する。

○正しく畫くには、理會の場合とは逆に、外から内へ、全體から部分へと外準的に畫いてゆく方法による。

○中厚紙への位置については、車體部、泥除け、其他附屬部の展開圖が畫けるやう配置に注意する。

○どの線から畫いてゆくが一番よいか、その順序について研究

四、實習

一 各自の設計圖に従つて、中厚紙の上に展開圖を畫かせ、机間を巡回して個別指導をする。

○定規類の使ひ方については、正しい角度と真直い線がひけるやう嚴格に注意する。

○物指の使ひ方については、寸法の正確を期するやう注意する。

○鉛筆は常に正しく削り、芯の先を細く尖らせて正確な線がひけるやうに注意する。

○切る部分と折り曲げる部分とを區別しておく。

○同じ折り曲げる部分も、表に折る場所と裏に折る場所とがあるから目印をして置く。

五、推敲

製圖が出来れば、更に推敲して、展開方法、寸法、角度等について再検査して展開圖を完成する。

備考 公開授業としては本次教材の前半一時限の授業を行ふ。



二部 藝能科(裁縫)授業案

(十一月二十七日、第一時、於裁縫教室)

授業者 佐々木由子

題目 前かけ  
要旨 前かけの使用目的を明らかにし、これに關聯して用布の地質、色、柄の選び方、形、寸法の定め方等につき知らしめる。

尙寸法の定め方は着用者の身體を基準として合理的に定めることを徹底させる。  
本課は最初の衣類教材であると見らるべきものであるから、その心して指導するは勿論、本課の學習によつて、三つ折りぐけ、本ぐけ等の基礎技術を指導すると共に工夫考案の力を養ひ、また勤勞愛好の精神を養ふ。

要項  
一 使用目的と形、寸法 二 地質、色、柄の選び方 三 型紙のとり方 四 用布の準備 五 裁ち方 六 まはりの始末 七 紐縫ひ 八 襲取り 九 紐付け 十 紐ぐけ 十一 ポケット付け 十二 仕上げ

關聯  
一 よい身なりの項に關聯して働らく時には働らきに相應した仕事着の必要を知らせる。  
二 着物のしまつに關聯して衣服の汚損を出来るだけ未然に防ぐことの必要と其の實踐とを心得させる。

時間配當 (十三時間)  
第一次 使用目的と形、寸法 (一時限)  
第二次 地質、色、柄の選び方 (一時限)  
第三次 型紙のとり方 (一時限)  
第四次 用布の準備 (一時限)  
第五次 裁ち方 (一時限)  
第六次 まはりの始末 (本時) (一時限)  
第七次 紐縫ひ (一時限)

第八次 襲取り (一時限)  
第九次 紐付け (一時限)  
第十次 紐ぐけ (一時限)  
第十一次 ポケット付け (一時限)  
第十二次 仕上げ (一時限)  
時間配當は初等科裁縫上教師用書に依れば大要以上の如くなるのであるが、實踐上からは當然時間に不足を來すもので、こゝで私見をはさめば此の教材には少くも十六時間を要し、使用目的と形、寸法並にまはりの始末、紐縫ひ等には二時間をあてるのが當然と考へるのである。

第六次  
主眼 實物の觀察と各自の裁斷した用布との比較研究により前かけの垂れ布の周圍を如何に始末すべきかを見出さしめ、その方法を實習させる。  
準備 出來上り標本、裁ち切り標本、かぶり縫、三つ折り縫ひ、三つ折り縮け

過程  
一 裁ち切り垂れ布の觀察  
二 周圍の始末法を考へさせる  
三 實物の觀察と三つ折り縮けの名稱  
四 三つ折り縮けの長所  
五 三つ折り縮けの方法  
六 三つ折り縮けの練習  
七 實物の實習

注意  
一 裁ち切り垂れ布の一方には紐がつくけれども、他の三方はそのまゝに使用されるものであつて、此の部が何れも耳であることは絶対にないわけである。故に裁ち目の始末として、これを如何に始末すべきか、既習の事項をも思ひ出させて種々考慮させ、新たに指導する三つ折り縮けのよさを明らかに認めさせなくてはならぬ。  
二 過程七の實物の實習は次の時間に入るわけであるが、實習に際しては、更に次の點に注意を要す。  
(一) 三つ折り縮けの順序  
(二) 角の始末

以上



二部 理數科算數授業案

(十一月二十七日、第一時、於普通教室)

授業者 山本松七

題目 人口 (58頁—62頁)

要旨 大東亞戰爭の必勝と共榮國の建設を完遂し、以て國運の發展を圖るためには、他と關聯して良質の日本民族を増大させることが極めて重要であることを悟らせ、我國の人口、出生、死亡の累年變化を考察させ、更にこれを世界の主な國々と比較させ、尙平均餘命をも考察させることによつて、人口問題について關心を持たせ、事實に對する見方、考へ方、捌き方を基礎的に鍊成するにある。

要項及時間配當 (六時)

- 1. 全國及内地の男女別人口の累年統計を考察させる。 第一次
- 2. 内地の出生、死亡の累年統計を考察させる。 第二次
- 3. 内地の男女別人口一萬に對する年齢別死亡數を考察させる。 第三次 (本時)
- 4. 我國及列國の人口、出生、死亡の統計を考察させる。 第四次
- 5. 我國と列國との男女別平均餘命の比較考察を行はせる。 第五次
- 6. 郷土の人口動態について考察させる。 第六次

關聯

六年上卷 私たちの身體 傳染病  
 六年下卷 9頁二番 68,9頁七番  
 理科書 第四十五課衛生 修身書 第二十一、二課國運の發展 國史 吾等の覺悟 その他地理 郷土科、行事たる身體検査(秋季)運動會、明治神宮國民鍊成大會  
 準備

二番の圖表、三番の圖表を擴大したもの、五歳までの乳兒死亡表、列國人口密度表、明治初年以來の人口増加表、五番の圖表

過程

1. 前時の復習と考察  
 人口の自然増加について復習する。殊に人口100人に對して約3人生まれ、約1.7人死ぬ割合であることを明記させ、東亞建設には人口の増加が極めて必要であるが、その人口増加には、出生率を増大し、死亡率を少くすることが大切であることに思ひ至らせる。
2. 本時學習目的の設定  
 死亡率を少くするためには死亡數の年齢別統計を考察して、これに對する理解を深めることも緊要であることを考へさせ、三番の研究に入る。
3. 圖表を觀察させる  
 1, この圖表は何を表示したものか  
 2, 人口一萬に對する死亡數とはどんなことか  
 3, 横の軸と縦の軸とは何を表してゐるか  
 4, この圖からどんなことがわかるか  
 5, 次の如き注意を興へて觀察させ、主要點を記録させる。  
 ○全體的に、○關係的に比較研究すること、○圖表に潛む事實の姿をみることに努める、○私共の爲になること、注意すべきことはないかを考へる。
4. 觀察事項の發表と檢討  
 1, 數名に發表させて檢討  
 2, 更に圖表に表示されてない事項即ち五歳以前の死亡状態について推究させ、教師の準備した數表と比較させて、事實のつながりをたしかめる。  
 3, 全體の傾向をまとめて發表させる。  
 4, 死亡の原因について考察させる。  
 5, 兒童の知友親戚に於ける死亡者の數と年齢を想起させてこの圖表と對照させる。  
 6, 皇民生活の實踐的方法を考へさせる。



三部 六年 藝能科圖畫授業案 (十一月二十七日(金)、第一時)

授業者 田原輝夫

題目 パリカン(男) 鉄(女) 寫生畫

要旨 パリカン(男) 鉄(女) を精密に観察し正確に鉛筆で寫生させて、精密描寫の修練をすると共に機械に對する興味と理會とを深める。

精密描寫は省略描寫と共に正しい觀察力と正しい表現力とを修練するに必要なものである。故に本學年に於いては、先に雜草の精密描寫を課して、對象の見方表示方を指導して描寫力の修練をしたのである。また、この學年頃の兒童は知的發達に伴つて、機械の構造や機能に興味を持ち精密に觀察しようとする態度となるものであるが、本學年の兒童は特に工作に於ける自轉車の分解、組立の指導によつて、機械に對する興味と理會とを持つものである。前述の様な兒童の描寫力の發達と心理的欲求及び工作に於ける機械の分解、組立の指導に關聯するほか、機械は構造の上から精密描寫の修練に適するものであることから本教材を採用したのである。

要項

一、機械類を描寫した參考作品の鑑賞 二、パリカン(男)鉄(女)の構造及び機能の理會 三、見る方向の指導 四、形の描寫指導 五、立體感、質感表現の指導 六、明暗陰影の觀察と描寫及び仕上 七、作品の比較鑑賞

關聯

一、描寫の方法上から雜草と關聯する。  
二、機械類への興味、理會の上から工作に於ける自轉車の分解、組立と關聯する。

時間配當 三時間

第一次 一、構造及び機能の理會 二、見る方向の指導 三、形の描寫指導

第二次 一、形の描寫の訂正と仕上 二、立體感質感の表現指導 三、明暗陰影の觀察と描寫 四、作品の比較鑑賞  
但し要項一の參考作品の鑑賞は第一次になすが本教材の取扱に於いては最も効果的と考へるも、當日は參觀人多數にて教室内の兒童の動作不自由につき前日鑑賞させる。

準備 パリカン、鉄、畫用紙、HB鉛筆、消ゴム、機械類を描寫した參考畫、質感立體感表現の參考畫、形描寫の參

考畫其の他。

第一次

主眼 パリカン(男)鉄(女)を鉛筆で寫生させて、形の精確な描寫力を修練すると共に構造及び機能に就いての理會を深めさせる。

過程

一、構造及び機能の理會

パリカンはどんな構造であるか、どんな働きによつて髪を刈ることが出来るか、螺旋はどんな形をしてどんな働きをするかなど、また鉄はどんな構造で、どんな働きによつて物を切ることが出来るかなどを動かして見たり、いろいろの方向から見るとして精しく觀察させる。

二、見る方向の指導

部分の構造などもよく理會されるやうに比較的近くにパリカン鉄を置いて、どの方向から見ると最もよいかを工夫される。

三、形の描寫指導

1. 精密描寫に於いては、細部の觀察にのみ注意して、其の大體の形を不正確にし勝であるから、特に全體の形を正しく畫くことの大切であることを理會させ、パリカンや鉄の方向、パリカンの兩把手の角度鉄の開き工合など、形描寫の基礎となる參考畫を見せて理會させる。
2. 全體の形の大要を軽く畫いて位置と大きさを決定させ、各部の割合や形の概略を畫かせる。
3. 遠近による形の變化に注意し、各部の構造など精しく觀察させながら形を精確に畫かせる。パリカンに於いては双の重なり具合や双の數、螺旋の數などもよく觀察させる。
4. 形の下畫きが出来た兒童から、鉛筆の線の大小、強弱など工夫させて形を仕上げさせる。

備考

- 一、細部の描寫に於いては、描寫の途中手に取つてよく見るとか、時には動かして見るなどして精しく觀察させることもあるが、畫く場合には常に對象と自分との位置關係を一定して畫かせ、或る部分は右から見て畫き、或る部分は左から見て畫き、また或る部分は上から覗いて畫くことのないやうに注意する。
- 二、定木類を使用せしめずに畫かせる。
- 三、パリカン、鉄は兒童の家庭にあるものを持参させる。



二部 理数科自然の観察授業案

(十一月二十七日、第二時、於體育室)

授業者 岸 一 敏

題目 鳥の羽  
要旨 鳥の羽で砂を掃いたり、鳥の羽を飛ばしたりさせて、羽に対する理解を得させるとともに、身近なものの中に、おもしろい事が含まれてゐることに気づかせる。

要項  
一、羽で砂繪を描かせて羽の構造を観察させる。  
二、羽を水につけて観察させる。  
三、羽を飛ばせる。

關聯

一、雞の飼育

雞は、學校園と府下保谷村にある我が校の田園教場に於いて飼育してある。全校兒童の手によつて餌料をあつめこれを愛育してゐる。もつとも主として、この飼育管理にあつてゐる學年は、各部の五年で、一年は、随時に觀察してゐるのである。

この題目で扱ふ鳥の羽は、主として、この雞小屋で拾ひ集めた雞の羽で、その外、兒童が家庭その他で、既に集めてあつた各種の鳥の羽をも持参させることにした。

二、らくかさ

初二の自然の觀察、第二課で扱ふ「らくかさ」とは、羽を飛ばしてあそぶことと直接に關聯してゐる。かゝる教材が更に發展して飛行機の原理を扱ふことを、「初等科の理科」が豫定してゐるならば、本題目は、その指導の端緒ともなるべき教材である。

三、はねとたこ

初二の自然觀察、第二十三課で扱ふ「はねとたこ」とは、はねに錘りをつけて飛ばす遊びと直接に關聯してゐる。この意味で、「はねとたこ」は、前説の「らくかさ」よりは、寧ろ先行して扱はるべき教材であると思はれるので、

その一部をここに擧揚したものである。

時間配當 (二時間)

第一次 鳥の羽の觀察。集めて來た鳥の羽で砂繪を描かせたり、水に入れておぼせて、觀察させる。

第二次 鳥の羽を飛ばせる。そのまま飛ばしたり、錘りをつけて飛ばせたりして、その様子を觀察させる。

準備 雞の羽、各種の鳥の羽、粘土板、砂、粘土又はさつまいも、コップ、水を入れた湯わかし。

第二次

主眼 鳥の羽をそのまま飛ばしたり、錘りをつけて飛ばしたりさせて、おもしろく遊ぶことを觀察させ、探求心を養ふやうに努める。

過程

一、前次にしらべたことをまとめる。

鳥には羽が生へてゐること。羽はきれいであること。水に入れてもぬれないこと。砂繪をかいて遊んだこと。一つの方向へはうまく掃けるが、反對の方向では、羽がさけてうまく掃けないこと、さけた羽はなでると、直ぐつとて元の通りになること。

二、今日は、羽をつかつて遊ぶことを告げる。

三、羽はいろいろに使えること。羽箒、羽子、羽子蒲團。羽子をついた經驗を話させる。追羽子

四、どうして羽子につかふのだらうかを考へさせる。きれいだから、軽いから、よくとぶから、ひらひら舞ふから。五、どんな飛びかたをするか。實驗實證させる。羽を一枚持たせて、飛ばせる。

強く、弱く、程よく、高く、低く、水平に豫想通りになつたかを確認する。

六、高い所からとばせる。體育室の二階からとばせる。豫めその方向を豫想させて、その通りになるかを確認させる。どうしてさうなるかを考へさせる。

七、遠くへ飛ばせるにはどうするか。錘りをつける。その錘りに使ふものは、粘土、さつまいも、どんぐり。

八、錘りをつけさせて、飛ばせる。錘りの大きさ、重さによつて飛び方の異なることを觀察させる。

九、おもしろく、飛ばす工夫をさせる。一つの錘りに、一枚、二枚、三枚と羽の枚数を異にして試みさせる。

備考

一、第一次は、校庭又は教室内で學習させる。

二、第二次は、高い所から飛ばす關係から、體育室をえらんだのである。

二部一年理数科自然の観察授業案



一部 理數科理科授業案

(十一月二十七日、第二時、於理科教室)

授業者 香 月 大

題目 ウガヒ水 (初等理科、一、十九)

要旨 塩やホウサンを使つて、うがひ水をつくらせ、健康増進の上から、うがひをすることを實踐するやうに導くとともに、塩水やホウサン水の著しい性質に觸れさせる。

要項

- 一、冬の衛生として、うがひの必要なことを知らせる。
- 二、コップやびんをきれいに洗ふことを工夫してやらせる。
- 三、塩水、ホウサン水をつくり、早く溶かすことを工夫させる。
- 四、塩水、ホウサン水を煮つめて、再結晶することをしらべさせる。

關聯

- 一、自然の觀察、二、「冬の衛生」は、子供ながらに自分の體への關心を深めて來たことに於て、本教材の基底となり、體鍊科「口腔の清潔」に於ては、更にうがひの實踐を推進させるものとして、關聯が深い。
- 二、塩水やホウサン水をつくる際に、目方を測つたり、水の量をしらべたりすることは、算數に於ける、重さ、體積の教材と極めて關係が深い。

時間配當 (五時間)

- 第一次 うがひの必要、コップ、びんを洗ふ、塩水をつくること。(二時間)
- 第二次 うがひの塩水をつくつて、うがひをさせる。(二時間)

- 第三次 ホウサンを觀察して、ホウサン水をつくる。(二時間)——本時
- 第四次 ホウサンとうがひ水をつくる。塩水、ホウサン水を煮つめる。(二時間)

第三次

主眼 前に塩水をつくつたことと、考へ合はせて、ホウサンの形、色、光澤、味などをしらべてから、ホウサン水をつくらせ、溫度による溶解の相違を確かめさせる。

準備 ホウサン、秤、さじ、コップ、ガラス棒、寒暖計、其他。

過程

- 一、ホウサンについて、兒童の經驗を話し合はせる。
- 二、ホウサンを觀察する。
  - 形、色、光澤、味等について觀察すべきことを知らせる。
  - 味をみることは、往々危険であることを話して、藥品取扱上の注意をする。
- 三、ホウサン水をつくる。
  - 塩水をつくつた時の事を反省して、つくり方の上で工夫する點を話し合ふ。
  - 水にホウサンを落して、溶解する様子を見させる。
  - ぬるま湯に落して、水よりも遙かに溶け易いことをしらべさせる。
  - ぬるま湯で出來たホウサン水を放置して、溫度の低下によつて、沈澱する事實を考察させる。
- 四、塩とくらべて、實驗の結果をまとめる。
  - 溶ける分量には、限りがある。
  - ホウサンの溶ける量は、塩にくらべて、溫度によつての違ひが大きい。
  - 一度溶けたものでも、溫度が下ると沈澱する。
- 五、研究を反省して、ホウサン水をびんに分ける。



三第 理數科算數授業案

(十一月廿七日、第二時、於普通教室)

授業者 關 根 忠

郵便

通信が國家活動並びに國民生活に重要なことであるを考へ、郵便の種類、料金の規定の大要について知らせ、實際の郵便物を取扱ふ場合の修練をさせる。

要目

1. 通信の重要性とその發展。

2. 郵便の種類、料金の規定の大要。

(イ) 通常郵便 (ロ) 内地の小包郵便 (ハ) 内地と外地・滿洲國・中華民國間の小包郵便 (=) 特殊取扱としての書留郵便及び速達郵便・航空郵便 (ホ) 内地及び、内地と外地・關東州・滿洲國との間の電報(ヘ) 南方の郵便

3. 階段状グラフ

4. 實隣上の修練

關聯 國民科地理アゾア州。

時間配當 (7時間)

第1次(本時) 郵便局見學の回想。通信の重要性。通常郵便。階段状グラフ。

第2次 書留及び速達。航空郵便 問題 (1) (2) (3)

第3次 小包郵便 問題 (8)

第4次 内地と滿洲國・中華民國・南方との郵便 問題 (4) (5)

第5次 電報 問題 (6) (7)

準備 各種郵便物の實物又は模型。切手。電報用紙。秤。定期刊行物。方眼紙。問題 (9) (10)

主眼

「各自の家で出したり、或は來たりする郵便物を考へ、又、郵便局を見學したことを回想したりして郵便の種類を知らせ、通常郵便、特に書状に關しては稍々詳しく取扱ひ、階段状グラフについて明らかにするのである。

過程

1. 郵便局見學の回想 (イ) 勤めてゐる人はどんな仕事をしてゐましたか。この間で事務を色々あげさせ、郵便とは、信書物件の送達をする作用・設備を意味することを知らせる。

郵便局では、郵便爲替・郵便貯金・電話・收入印紙賣捌・振替貯金等も取扱つてゐることを簡單にふれる。

(ロ) 勤めてゐる人達はどんな態度で、又、局内の設備はどんなことを目標として出来てゐましたか。

この間で、局員が眞摯に正確に迅速に事務を扱ひ、設備は能率的に出来てゐたことを考へさせ、それから、郵便は單に各人の日常生活に密接な關係があるばかりでなく、國家運営上に重大性を持つことを知らせる。

2. 郵便物について。各自の家での郵便物 「どんな郵便物を出しましたか。又、來ましたか。」

此の問で、普通各自の家で取扱ふ郵便物をあげしめ、一口に郵便といふも色色の種類のあること、大別して内國郵便と外國郵便とし、内國郵便を(1)通常郵便、(2)特殊郵便・航空郵便、(3)小包郵便、(4)電信などと考へられることを知らせる。

3. 通常郵便 問題(1)の表によつて、通常郵便の内容を説明する。(料金の改正分は訂正する)實物又は見本を示し、具體的にする。

特に書状に關しては、封筒の大きさ、書き方、切手の貼付等について、實際的に指導する。切手代を答へさせる。

4. 階段状グラフ 書状の料金は下の様であることを問答して明らかにする。

20グラムまで 5錢。20グラムを超え40グラムまで 10錢。(20グラム以上40グラム以下といふ表し方は正しくないことを注意する。) 40グラムを超え60グラムまで 15錢。60グラムを超え80グラムまで 20錢…

以上の様な書状の目方と料金との關係は比例關係でないことをつきりさせ、それを圖表に表はせばどんな圖表となるかを考へしめる。(上巻 51 頁の圖表回想)

問題(2)の圖表を取扱ふ。此の圖表では、例へば 20 グラムは料金 5 錢の方と 10 錢の方とに含まれてゐることを注意する。

問題中の「十二錢」は「十五錢」と訂正し「40 グラムを超え 60 グラムまで」と答へしめる。

此の圖表を比例する二量の關係を表はした圖表と比較して、量の連続、不連続といふ考へを暗示的に取扱ふ。

定期刊行物の重さと料金との關係を表はす圖(第三種郵便)、書籍等の重さと料金との關係を表はす圖(第四種郵便)とを書かしめる。

5. 第三・四種郵便物の料金を調べ、又はその逆の調べの問題練習。

(イ) 少年俱樂部一部の郵便料金。(ロ) 少女俱樂部一部の重さ。(ハ) 算術書一部の郵便料金。(ニ) 寫眞の郵便料金。以上をかいた圖表を用ひて答へる。



四 二年女 藝能科家事授業案

(十一月二十七日、第二時、於女兒教室)

授業者 丹野とみ代

題目 食物と栄養

要旨 生命の源泉とも云ふべき「食物」について考察せしめ、發育促進、體位向上、健康増進上特に重要視すべき食品について知らしめると共に、それ等の含有する五大栄養素につき、化學的、物理的性質、及、體內に於ける變化と作用等について、兒童の理解の程度に適應する様、平易に指導し、以て栄養に關する趣味を養ふと共に、栄養學の基礎的啓培に資する。

要項

- 一 食物攝取の必要なる所以
  - 二 如何なるものを食したらよいか
  - 三 栄養學の意義、及、研究の必要なる所以
  - 四 五大栄養素の化學的、物理的性質と、體內に於ける變化と作用
  - 五 食物の必要量測定の必要と其の量
  - 六 合理的日本人の食物生活……………國民保健食
  - 七 戦争と食物……………食物の貯藏
- 關聯 理科 地理 歴史  
時間配當 三時間
- 第一次 食物の必要
  - 第二次 五大栄養素の化學的物理的性質
  - 第三次 五大栄養素の身體内に於ける變化と食物の量 (本時)

準備 動物性食品の圖、植物性食品の圖、國民食圖解圖、營養素の體內に於ける變化の圖解掛圖。

主眼 第一次、第二次 授業事項の復習をなし、進んで各營養素の體內に於ける消化吸収の概略を指導し、營養素の身體に及ぼす働、及、その必要なる分量の測定、の必要を知らせ、その方法、及、各種研究の結果合理的と認められたる分量について、國民保健食量表に準じて指導せんとする。

過程

- 一 前時までの復習
- 二 目的指示
- 三 代表的食品の種類と、主に含有する營養素について
- 四 身體内に於ける營養素の消化過程の概略
- 五 身體内に於ける營養素の吸収過程の概略
- 六 營養價値の大小のきめ方について
- 七 比較的營養價値大なる食品について
- 八 營養素の必要量の測定法と適當と認められる分量について
- 九 國民保健食について……………戦争と食物、食物の貯藏
- 十 合理的食物生活……………偏食の害、合理的食物生活の効果

備考

體位向上、健康増進の叫び聲に平行して、營養改善の實も漸く擧がりつつあることは、まことに喜びに耐えない事である。一國の體位の如何が、其の國の國運の盛衰に如何に關係が深いかは、ここに論ずるまでもないことである。撫肩、柳腰、の婦人を以て美人の典型とした、ピルマ人、安南人等が、如何に屈辱的な生活をして居たかは、今次聖戰の明らかにした通りである。營養知識なき未開人は、食物生活の不合理性と、身體の危害に對する警戒とのために精神を消耗して瘠せ細つてしまひ、自然に人口が減少し、淘汰されて行くを聞く。將來の營養問題は斯くして國運の隆昌を期する爲、ひいては日本民族の永遠の發展の爲、あくまでも米英人以上の立派な體格と、絶大な體力とを養はなければならぬ。食物を徒らに消費することなく極めて合理的に調理し、攝取し、以て營養の効果を十分に發揮せしめなければならぬ。兒童の理解に難くない程度に於てさうした國家的見地にたつ營養學を指導したいと思ふ。



### 算数教科書 算数 算数

(十一月二十八日、第一時、於普通教室)

授業者 高木佐加枝

豆細工 (「カズ」ホソジニ 第18頁)

ひごを指定された長さに切つて、それで豆細工をする間に、物指を使って、或長さを切取ることを指導し、物指の使い方に慣れさせる。尚、併せて、基本的な図形の概念を明らかにしようとするのである。

#### 要項

1. 正方形の観察とその製作
2. 矩形の観察とその製作
3. 二等邊三角形の観察とその製作
4. 正三角形の観察とその製作

關聯 算能科工作

時間配當 一時限

準備 物指(二十個)、ひご、豆(きびがらを一種づつに切つたもので代用する)、鉄、正方形・矩形・二等邊三角形・正三角形を小黒板に書いたもの

計算練習問題

#### 過程

##### 1. 暗算の練習

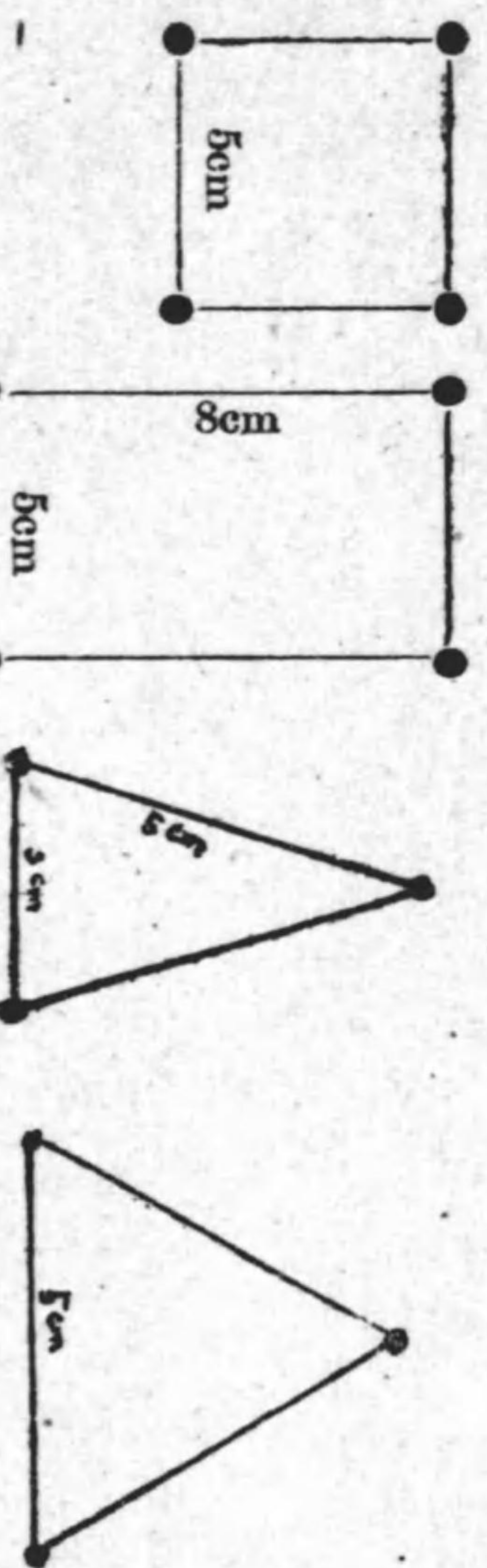
聴暗算又は視暗算による。

十までの数範囲に於ける加減の暗算練習を行う。

【例】  $4 + 2, 3 + 3, 3 + 6, 5 + 5, \dots$   
 $8 - 3, 7 - 4, 10 - 2, 9 - 5, \dots$

##### 2. 目的物指

ヒゴヲ 五センチメートルト 八センチメートルノ 長サニ キツテ、 ツギノ三ツノ カタチヲ ツクツテ  
ゴラソナサイ。



これらの圖の豆細工は二種類の長さのひご(長いのが八種、短いのが五種)から出来てゐることを諒解させ、三つの圖のすべてのひごについて、どれとどれとが五種で、どれとどれとが八種であることを、直観的に判断させる。

(1) ひごの数

この四つの豆細工をするには、五種のひごと八種のひごだが、それぞれ何本づつ要るかを考へさせる。

##### 3. 形の製作

ひごを必要な長さに、必要な数だけ切取らせる。切り方は五種のものならば、一本を正確に物指で計つて、あとはこれにあはせて切り取るのが便利であることを考へさせる。

五種のひご 七本 八種のひご 七本  
次に、きびがらの一種のもの(豆の代用)が、幾つあるかを数へさせた数だけ取らせる。

以上揃つたら、四つの形(正方形・矩形・二等邊三角形・正三角形)を作らせる。

4. 出来上つた形の観察 出来上つた四つの形を机の上に並べ、これを裏がへしたり、上下をさかさまにしたり、縦・横の位置を置きかへたりして、弄ばせる。

##### 5. 整理

1. 暗算練習は、中絶するものもよくないが、一時に多く購することも避けなければならぬ。分量を適當にして毎時継続的に練習させることが大切であると思ふ。
2. 行動の前に計畫を立て、それに基づいて實行することは肝要なことである。本時に於ても、形を製作する前に、必要なひご及び豆の数を数へさせる。仕事を始める前に、かやうな見積り、設計をする態度を養ふことは極めて大切であると考へるからである。しかも、その間に、自らこれ等の圖形に關する重要な知識が得られることにもなるのである。
3. 形の名稱については、「カズ」ホソジ一指導の時から、既に、「チカカカク」、「サソカカク」、「サソカカク」といふ言ひ方を用ひてゐるから、これを用ひることにする。
4. 尚、三角形について、二等邊三角形と正三角形とあるが、前者は二邊が等しいこと、後者は三邊が等しいこと、直観的に判断し、基本的な圖形に關して、頂點・邊・角などの概念及び性質を明確にさせて行く上に、非常に都合がよいから、今後は算能科工作と連絡をとつて時々利用することにする。しかし、ここでは、観察及び作業を通じて、これらの概念・性質の基となる直観をはつきりさせておくだけで十分であつて、これらの用語を教へたり、性質を説明したりするのはないのである。







三部 六年 藝能科工作授業案 (十一月二十八日、第一時、於工作教室)

投業者 新井 光 二

題目 自轉車

要旨 自轉車の分解組立及び手入をさせ、交通機關としての自轉車につき、その構造及機能の概要を理會させ、これを十分に活用しうる能力を養ひ、且つ一般機械の取扱ひに慣れさせる。

要項

- 一、車、舵、駆動装置、制動装置、腰掛等自轉車各部の名稱を知らせ、構造及び機能の概要を理會させること。
- 二、自轉車各部の整備。
  1. 車の整備(前の車及び後の車につき、車を取外し、車軸部を分解し整備すること。車輪の辨の整備。)
  2. 舵の整備(ハンドル及びホークを取外し、軸受を分解し整備すること。)
  3. 駆動装置の整備(クランク及びペダルを取外し、ペダルは球軸受を分解し整備すること。鎖の外し方、掛け方。鎖の張り工合の調整。)
  4. 制動装置の整備(よく制動し得るやう棒の長さを調整すること。)
  5. 腰掛の整備(高さ、前後の位置、傾斜等の調整。)
- 三、次の機械の要素につき構造及び機能を理會させ、取扱ひ方を指導すること。
 

ボルト、ナット、座金  
小ネジ  
球軸受  
勾配ピン  
鎖及鎖齒車  
辨等
- 四、次の工具及び材料につき構造機能性質を理會させ、取扱ひ方を指導すること。ネジ廻し、スパナ(三種)、布、

油差し、グリース等

關聯 理科「自轉車」理科算數「自轉車」

時間配當 (毎次二時限連續九十分授業とす)

- 第一次 自轉車各部の名稱構造及び機能の概要。前の車の整備。
- 第二次 舵及び制動装置の整備。
- 第三次 腰掛及び駆動装置の整備——本時——
- 第四次 駆動装置及び後の車の整備。

本時 (第三次後半)

主眼 ペダルの整備を行はせ、左ネジ、特殊座金、板スパナの機能を理會させ、球軸受の取扱ひに慣れさせる。

準備

自轉車、スパナ、板スパナ、ネジ廻し、布、グリース。

過程

- 一、ペダルはどんな故障を起すことがあるか。
- 二、ペダルをクランクから取外すのはどうすれば外れるか、どんな工具を使へばよいかを考へさせる。  
板スパナの構造について、何故幅がひろいのかを理會させる。
- 三、右ペダルを取外させる。
- 四、左ペダルを取外させる。左に廻さなければ外れない事を發見させる。
- 五、ペダルの廻轉方向とクランクの廻轉方向との關係を理會させ、左ネジの用ひられてゐる理由を明かにする。
- 六、小ナットを外しペダルを分解させる。
  1. 蔽ひはどうして必要か。
  2. 特殊座金の機能につき、舵の分解の際の電燈掛けとの比較。
  - 七、球軸受を分解し、球の油を拭き、點検してからグリースを用ひて組立てさせる。玉押しの際の締め工合がよいかどうか、廻轉が滑らかになつたか調整してペダルの整備を終る。
  - 八、ペダルをクランクに取付けさせる。
  - 九、工具の整理整頓後手を洗はせて終る。



### 三年 理数科算数授業案

(十一月二十八日、第二時、於教室)

授業者 北 山 巽

題目 図形の長さ (第三章 倍の概念第二項、児童用書 p 18)  
要旨 二つの図形について、一方の長さが他方の長さの何倍あるかといふことを、直観させ、考察させて、何倍といふ言葉を教へ、併せて図形に関する理解を深める。

#### 要項

(1) 二つの正方形の面積の比較 (2) 圓の二部分の面積の比較 (3) 二つの正三角形の面積の比較 (4) 正六角形と菱形の面積の比較 (5) (二つの菱形の面積、正方形と直角二等邊三角形との面積の比較)……補充題

開 關 カズノホソ ー p 21

セツ、p 22 風車 p 26 色板ナラベ エノホソ ー 十三 三角四角ナラベ

時間配當 (二時間)

第一次 要項 (1) (2) (3)……本時 第二次 要項 (4) (5)

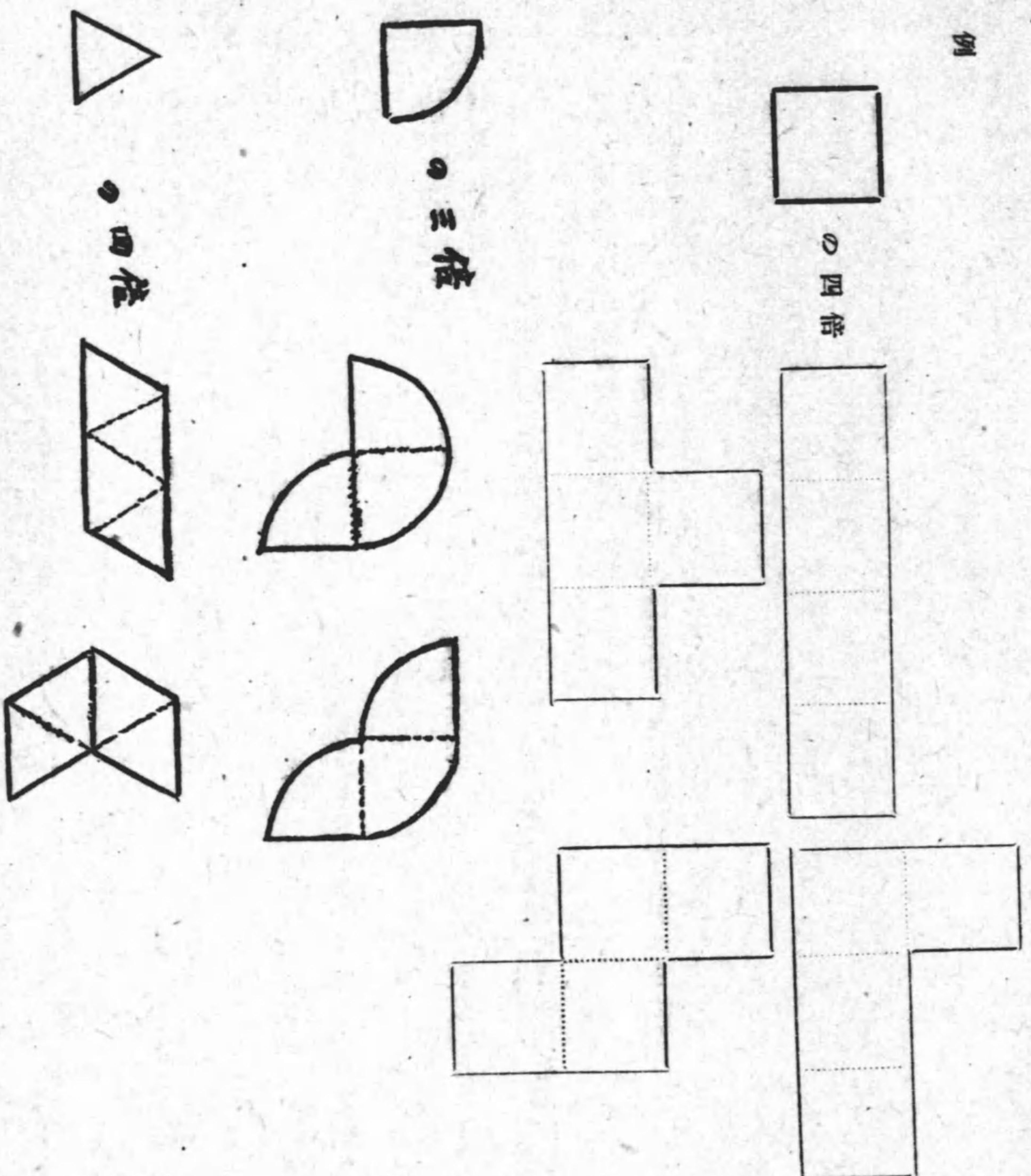
#### 準備

教師 教授用色板、比較すべき圖形の模型及び板書 児童 はさみ、クレヨン、圖形を印刷せる用紙

#### 過程

- (1) 圖形を印刷した用紙を配布して、夫々の圖形の名稱をただし、大小二つの圖形の長さを比べることを告げる。
- (2) 二つの正方形の面積をくらべさせる。  
  - (イ) 直観によつて大きい正方形は小さい正方形をいくつ合はせると出来るか判断させる。
  - (ロ) その結果を確かめる方法を工夫、考察させる。○ 線を引かせる。○ 小さい圖形をはさみで切り取り、大きい圖形に次々と重ねさせる。
  - (ハ) 何倍といふ言葉の意味を指導する。
- (3) 圓の二つの部分の長さの比較 (イ) 直観により判断させる。(ロ) 小さい部分をクレヨンで着色させて正方形の時と同様に確かめる。(ハ) 全圓と四分の一圓を比較させる。(ニ) 圓の描き方を工夫さし、それから四分の一圓の作り方を考察させる。
- (4) 二つの正三角形の比較(上に準じて指導)

例



(5) 小さい正方形、三角形、 $\frac{1}{4}$ 圓等の三倍、四倍等の圖形を構成させる、(時間の都合により自由な家庭作業とする)

備考 (1) 倍の逆の半分は既に指導した事であり、二倍と、半分との關係は内容的の理解は勿論、倍(二倍の意味)といふ言葉も既に児童が使用してゐる。  
(2) 三倍、四倍の逆たる三が一分、四半分の觀念も、三倍、四倍と同時に理解される事であるが、それ等の言葉は児童の方から出なければ積極的には觸れない。



三年 自然の観察授業案 (十七年十一月二十八日、第二時)

教 授 者 橋 本 爲 次

題目 簡易幻灯機  
要旨 極めて簡易な幻灯機により映寫をなし、レンズと光源とにより、映畫が大きく倒さまに映する事を知らせ、かうした玩具の取扱について學習させ、進んで簡易なる幻灯機を製作しようとの動機を喚起する——(後にこれが製作を實習させる)

要項

- 一 子供の玩具として市販せられをる型の幻灯機につき、その構造、取扱法につき、兒童の過去の經驗など回想せしめ、考究させる。
- 二 右に模してボール紙製の幻灯機を製作するとしたならば、如何なる材料を要するか、それらの材料を如何に構成すべきかを考案させる。
- 三 簡易幻灯用の原畫の製作についても考へさせる。
- 四 教師の準備した見本の簡易幻灯機を觀察させ、その扱ひ方を考へさせる。
- 五 右を實地に使用させ、よく出来ないところは教師補導して映寫をする。

關聯

- 一 初等二年の自然の觀察「蟲めがねと鏡」
- 二 初等三年「めがね遊び」の望遠鏡
- 三 初等科國語卷二の十二「僕の望遠鏡」
- 四 工作における色々の板紙細工  
……等

時間配當

- 一、本指導に一時限を配す

〔備考〕 簡易幻灯製作の爲には約二時限を配當し、未完成の者の爲には課外時間を配當する、製作は二、三人で一ヶを作ることにする。よく出来る者は一人で一ヶ作らせる。

準備

- 一、市販の玩具用簡易幻灯機及び映寫用原畫
  - 二、見本として教師の用意せる手製ボール箱幻灯機及び原畫
  - 三、直徑及び焦點距離を異にする凸レンズ數ヶ
  - 四、コード、ソケット、電球
  - 五、暗室装置、映寫幕に相當するもの
- 過程 (機に應じ變更あるべし)
- 一 目示、かねて約束した様に、簡易幻灯機の映寫及び、研究をする事
  - 二 要項(一)に示せる事項の取扱ひ  
これによつて、幻灯機には

- イ レンズ
- ロ 原畫
- ハ 光源

の三者が必要であり、これらを都合よくはたらかせる爲に暗箱が必要である事  
映寫する爲に映寫幕の必要な事をさとらせる

- 三、かくて要項の問題解決につき工夫考究させ
- 四、更に進んで原畫を簡易に製作する方途につき考へさせ、いろいろの考へを述べさせる
- 五、見本としての手製の簡易幻灯機の觀察研究
- 六、右、取扱ひ方の考究
- 七 試寫——出来るだけ兒童に扱はせる
- 八 凸レンズを色々取換へる事により映り方がふ事を觀察させ、レンズ選定について考慮すべき必要ある事に氣づかせる
- 九、かくして實地製作の意欲を濃厚ならしめ、後日の實習を約束する



### 二部 六年 藝能科音楽授業案

(十一月二十八日、第二時、於音楽室)

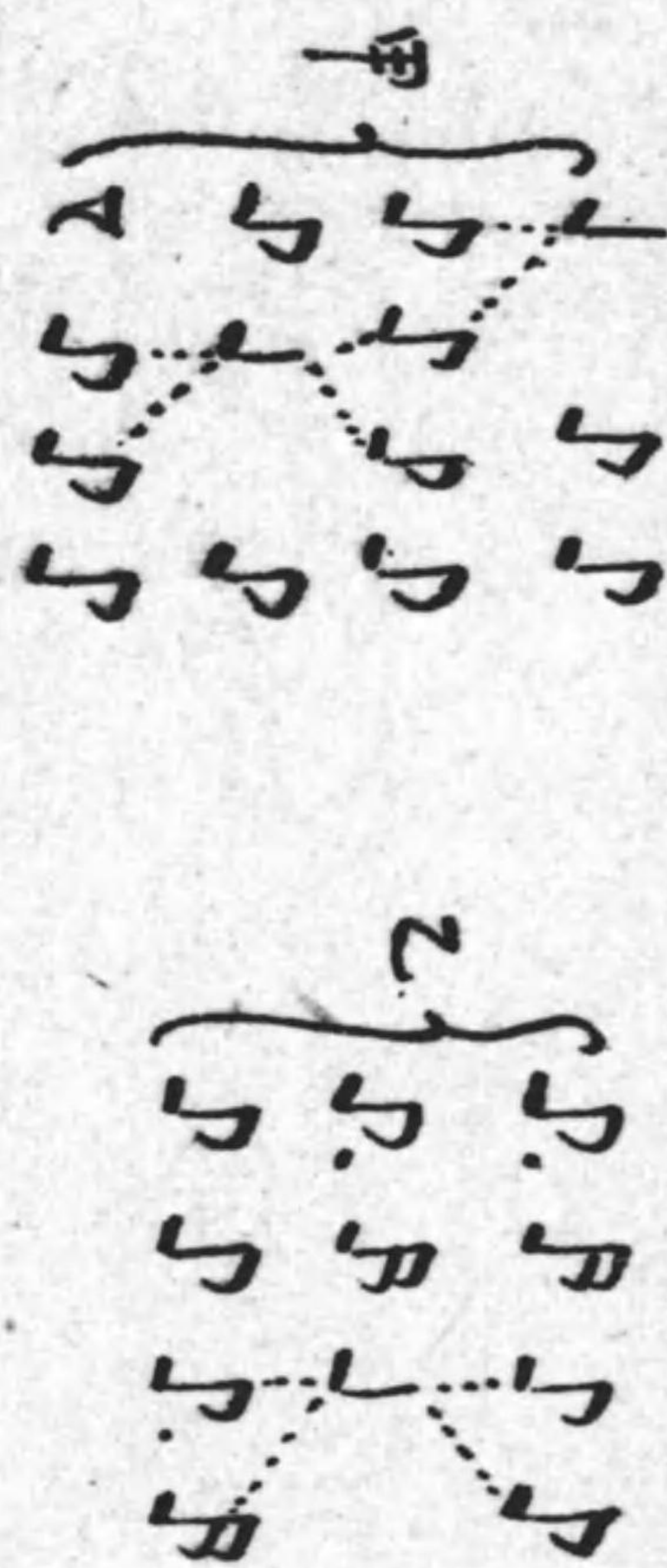
授業者 井上 武士

#### 題目

鳴門 (文部省新訂尋常小學唱歌第六學年用)

本歌曲を授けて、ハ長調の樂曲の音名視唱に習熟させ、鳴門海峡の壯觀を偲ばせて豪壯快活の精神を養ふ。

- 一、歌詞は七七、七七、七七、七五調、四句三節で鳴門海峡の壯觀を歌つたものであるが、第一節には満潮の時の様子、第二節には干潮の時の様子、第三節には鳴門海峡に於ける船頭の妙技を歌つたものである。
- 二、樂曲はハ長調、四分の二拍子、一點ハ音から二點ハ音までの音域から成り、音程には完全四度以上の進行は無十六小節から成る二部分形式で、律動には部分的な變化はあるけれども、これを概括すると次のやうな二つの形になる。



甲は四分音符と八分音符を主體とし、乙は附點八分音符と十六分音符の一拍と八分音符二個の一拍を組合せてあり、この二つの形がやや不規則に配合されて居る。

第一段と第二段の第一小節は同形旋律である。

三、指導上特に注意を要する點

- (一) 第二段、第四小節の始めにある附點八分音符が八分音符になり易い。
- (二) 第三段、第一小節の律動が不正確になり易い。
- (三) 第四段、第一小節の始めに八分休符のある律動。

#### 關聯

四、旋律にはハ長調の第四度(ハ音)及第七音(ロ音)をふくまず五音音階であつて比較的平易である。和音訓練と關聯をとり、單音抽出唱を主體として視唱させる。

關聯 國語 (卷十一) 第九 瀬戸内海 地理 五年 第五 近畿地方

時間配當 (四時間)

第一次 樂曲の視唱及歌詞の通讀 (本時) 第二次 樂曲の吟味及歌詞第一節の指導

第三次 歌詞第二節及第三節の指導 第四次 練習

準備 音盤 (コロムビア三三二六六)

#### 第一次

主眼 ハ長調各度上の和音の單音抽出唱を練習し、之と關聯をとつて樂曲を視唱させ、次に歌詞を通讀させて第一節を軽く歌はせてみる。

過程

- 一、基礎練習
  - (一) 音高記憶の練習
  - (二) ハ長調の和音練習
  - (三) 單音抽出唱の練習
  - (四) ハ長調の視唱練習
- 二、樂曲の視唱
  - (一) 始めは律動を離れて單音抽出の形式に依り旋律を視唱させる。
  - (二) 次は拍子に律動を吟味して一通り視唱させる。
  - (三) 拍子練習 (律動の確認)
  - (四) 練習 (批評)
- 三、歌詞の通讀
  - (一) 一通り全歌詞を通讀させて大意を問ひ、第一節を軽く歌はせる。
  - (二) 既習教材の練習
  - (三) 和音の構成は次のやうに解釋して取扱ふ。
- 四、備考



四部 高一 實業科商業授業案 (十一・廿八、第二時、於高一男教室)

授業者 進藤勝美

題目 第十九課 通貨

要旨 代金支拂の用具として先づ通貨に就いて教へる。

要項

- 一 通貨の意義
- 二 貨幣の歴史
  - 物々交換——實物貨幣——金屬貨幣(秤量貨幣、鑄造貨幣)——紙幣——預金貨幣
  - 特殊なものから一般的なものへ。素材價值に對する信頼から發行主體に對する信頼へ。
- 三 貨幣の職能
  - 社會的職能、(一般的交換手段、生産物と生産用役との媒介)
  - 形式的職能 (價值の尺度、價值の保藏)
- 四 通貨の種類
  - (イ) 本位貨幣——金貨(支那は銀貨)(素材價值と流通價值と一致)
  - 國際經濟に於ける金の地位。ブロック經濟と金
  - 政府の金買上運動に就いて
  - (ロ) 補助貨幣 (素材價值は流通價值より低く)
  - 種類
    - 少額の支拂に用ふ、強制通用限度
    - (ハ) 紙幣

關聯

- 不換紙幣と兌換紙幣、銀行券と政府紙幣
- 銀行券發行制度、(屈伸制限法から最高額發行法へ)
- (ニ) 配給切符と通貨

- 一 教材の系統、仕入注文——商品値段——販賣——代金支拂——支拂用具(通貨・小切手・手形・爲替)
  - 二 高一算術教科書二二頁、貨幣
- 時間配當 二時間
- 第一次 貨幣の歴史と其の職能、第二次 通貨の種類 (本時)
- 準備 各種通貨、其の寫眞、六法全書、日銀週報

第二次

主眼 通貨の種類と、國民經濟に於ける其の各々の持つ役目を明かにする。

過程

- 一 前時の復習
- 二 通貨の種類
  - (イ) 本位貨幣、無制限通用なるも國內には流通せず、純金一匁五圓、現在政府買上價格十四圓四十三錢
  - 金貨の用途——國際貿易の決済、世界戦争と金
  - (ロ) 補助貨幣、強制通用限度あり少額支拂に用ふ(銀貨・白銅貨・ニッケル貨・青銅貨・黃銅貨・アルミ貨)
  - (ハ) 紙幣
    - 日本銀行券、原則としては兌換紙幣なるも現在不換紙幣
    - 發行の原因——貸出、國債の引受等(十七年發行限度六十億・十月三日五十三億七千萬圓)
    - 政府紙幣、十錢、二十錢、五十錢の三種、財政上の必要に應じて發行・不換紙幣
    - (ニ) 配給切符、通貨に對する制限的作用



## 一、教科科目の運営について

野々村運市

### 一、國民學校令と其の教育構想

1. 皇國の道—教科科目—人性の構造—歴史的現實性
2. 國民學校の教育構想—日本的世界觀—八紘爲宇

### 二、實踐と知識

1. 實踐と知識との性格及び其の關係
2. 綜合
3. 關聯
4. 統合

### 三、教科・科目の構造と其の基體性

1. 教科・科目の構造とこれに對する「構へ」—教育の過程
  2. 神話—郷土—環境—童詩とその取扱
  3. 遊戯、競技、職務、作業、苦役の關係
- 四、技術と方法

大政翼賛會興亞局長 永井柳太郎氏







五部 下	五部 上	高二 女	高二 男	高一 男	三部 六年	二部 六年	一部 六年	三部 五年	二部 五年	一部 五年	三部 四年	二部 四年	一部 四年	三部 三年	二部 三年		
音	算	商	裁	算	地	圖*	算*	算	修	讀	讀	讀	裁*	工*	算	體	體
樂	數	工	縫	數	理	畫	數	數	身	方	方	方	方	方	數	操	操
佐野	湯田	進藤	佐木	新井	宮腰	田原	山本	川島	北山	小島	花田	青木	佐木	松原	香月	橋本	篠原
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
圖	國	家*	柔	國	算*	圖	讀	讀	國	理	讀	算	理*	算	算	算	算
畫	史	事	道	史	數	畫	方	方	史	科	方	數	科	數	數	數	數
佐野	湯田	丹野	小森	宮腰	關根	松原	川島	水島	小島	北山	青木	尾谷	香月	橋本	篠原	篠原	篠原
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工	讀	裁	商	理	地	工*	算	算	算	修	算	音*	算	讀	修	體	體
作	方	縫	工	科	理	作	數	數	數	身	數	樂	數	方	身	操	操
佐野	湯田	佐木	進藤	近藤	宮腰	新井	山本	川島	關根	小島	花田	小林	尾谷	香月	橋本	篠原	篠原
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工	圖	地	體	商*	算	音*	讀	讀	地	讀	修	修	算	理*	算	算	算
作	畫	理	操	業	數	樂	方	方	理	方	身	身	數	科	數	數	數
佐野	佐野	宮腰	湯田	進藤	關根	井上	川島	水島	佐藤	花田	青木	尾谷	香月	橋本	篠原	篠原	篠原
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

備考 1. ○(普通教室)地(地歴室)理(理科室)圖(圖書室)工(工作室)運(戶外)音(音楽室)裁(裁縫室)家(家事室)講(講堂)

3. 2. \*は授業案を印刷せる特別公開授業。  
一部一年は総合授業の趣旨をもつて行つて居るが、便宜上中心科目を示す。



431  
32

昭和十七年十一月廿四日印刷  
昭和十七年十一月廿八日發行

〔非賣品〕

東京市小石川區大塚窪町廿四番地  
東京高等師範學校附屬國民學校內

編輯兼發行所

初等教育研究會

代表者

窪田寬治郎

印刷人

東京市本郷區湯島切通坂町十四、十五番地

加藤晴吉

印刷所

東京市本郷區湯島切通坂町十四、十五番地

合資會社 正文舍  
東東二一九



特別公開授業及講演日割表

(土)日八二	(金)日七二	(木)日六二	(水)日五二	(火)日四二	
					8.30
算數(高木) 音樂(小林) 工作(新井)	習字(水島) 理科(多田) 工作(松原) 裁縫(佐々木) 算數(山本) 圖畫(田原)	午前六時三十分 明治神宮參拜 (原宿集合)	體操(小森) 讀み方(小島) 修身(川島) 劍道(湯田)	讀み方(森下) 修身(尾谷) 柔道(小森) 體操(佐野)	8.40 1 9.20
算數(北山) 理科(橋本) 音樂(井上) 商業(進藤)	自然觀察(岸) 理科(香月) 算數(丹野) 家事(丹野)	特別講演(九時より) (永井柳太郎氏)	讀み方(篠原) 讀み方(青木) 地理(佐藤)	綴り方(田中) 讀み方(花田) 國史(宮腰)	9.30 2 10.10
圖畫(田原)	工作(新井)		劍道(湯田)	開會式 特別講演 (久尾課長)	10.20 3 11.00
音樂(井上)	理科(橋本)	十時—十二時 學校行事 (川島)	讀み方(花田)		11.10 4 11.50
食畫算數(高木)	食畫習字(水島)	食畫	食畫綴り方(田中)	食畫郷土(佐藤)	1.00 1.40
會談座	算數(山本)	野々村主事	會談座	體鍊(小森)	1.50 2.30
式會閉	會談座	會談座		會談座	2.40 4.00